厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患政策研究事業）
アミロイドーシスに関する調査研究班　総括研究報告書

アミロイドーシスに関する調査研究

研究代表者　内木　宏延　福井大学学術研究院医学系部門　分子病理学分野　教授

研究要旨　われわれは令和 2～4 年度に及ぶ本研究計画で、(1) 病理コンサルテーション体制を中心とするアミロイドーシスの総合的診断体制を運用・発展させること、(2) 改訂診断基準に基づき、令和 3 年度に予定されている次回難病法改正にあわせ臨床調査個人票を改訂すること、(3) 各病型診療ガイドライン・ケアマニュアルと共に、新規重症度分類を作成すること、(4) 関連学会と連携して AMED 難病プラットフォームによるレジストリ研究を実施し、データを用いた疫学研究等を実施すること、(5) 非専門医向けセミナーや患者向けの公開講座等、アミロイドーシスの啓発活動を随時実施することの 5 項目を目指す。今年度の成果を上記目的の番号と対応させて記す。(1) 全国 9 施設でカスタム抗体を共有し、コンサルテーション体制を運用した。昨年度集計後の 1 年間で 1682 件のコンサルテーションを受け付け、1290 件の病型を確定した。(2) 全身性アミロイドーシス改定診断基準を作成し、関連学会の承認を得た後、令和 2 年 3 月に公表した。これを基に『概要、診断基準等』改定案を作成し、指定難病検討委員会に提出した。(3) 今回の『概要、診断基準等』、『臨床調査個人票』改訂では、重症度分類の改訂は行わないこととした。(4) 令和 2 年 4 月 1 日より『オールジャパンで行う全身性アミロイドーシスコホート研究 J-COSSA』を開始した。登録開始以来、AL アミロイドーシス 43 症例、ATTRv アミロイドーシス 82 症例、ATTRwt アミロイドーシス 884 症例、計 1,009 症例の登録を終えた。本研究の一部として、トランスサイレチン型心アミロイドーシスに対するビンダケル処方患者のコホート研究を日本循環器学会と共に実施しており、12 月現在、日本循環器学会認定 100 施設が参加している。(5) 熊本にて①患者・家族向け講演会「アミロイドーシスの診断サポート及び先進的な難病治療法」、②「道しるべの会」（FAP 家族性アミロイドポリニューロパチー患者・家族会）総会・講演会、③患者・家族向け講演会「眼アミロイドーシスの診療と眼をまもるための取り組み」をハイブリッド開催した。AL アミロイドーシス患者・家族向けセミナー「進化する AL アミロイドーシス治療」をウェブ開催した。

研究分担者

安東由喜雄　長崎国際大学薬学部アミロイドーシス病態解析学分野 教授
関島良樹　信州大学医学部内科学第三教室（脳神経内科、リウマチ・膠原病内科）教授
植田光晴　熊本大学大学院生命科学研究部脳・神経内科学分野脳神経内科学講座 教授
島崎千尋　独立行政法人地域医療機能推進機構京都鞍馬口医療センター医局 院長
飯田真介　名古屋市立大学医薬学総合研究院（医学）生体総合医療学講座・血液・腫瘍内科学分野 教授
小池春樹　名古屋大学大学院医学系研究科総合医学専攻脳神経病態制御学講座神経内科学 准教授
西　愼一　神戸大学大学院医学研究科内科学講座腎臓・免疫内科学分野腎臓内科学部門 教授
星野純一　虎の門病院腎センター内科 部長
山田俊幸　自治医科大学医学部臨床検査医学講座 教授
奥田恭章　道後温泉病院内科 院長
小野賢二郎　金沢大学医薬保健研究域医学系脳老化・神経病態学（脳神経内科学）

教授
北岡裕章　高知大学教育研究部医療学系臨床医学部門老年病・循環器内科学 教授
田原宣広　久留米大学医学部循環器病センター内科学講座（心臓・血管内科）教授
遠藤　仁　慶應義塾大学医学部循環器内科学教室 専任講師
大橋健一　東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科人体病理学分野 教授
畠山金太　国立循環器病研究センター病理部病理診断科 部長
安部正博　徳島大学大学院医歯薬学研究部血液・内分泌代謝内科学 教授
鈴木憲史　日本赤十字社医療センター骨髄腫アミロイドーシスセンター 顧問
河野　和　熊本大学大学院生命科学研究部血液・膠原病・感染症内科学講座 助教
山本　卓　新潟大学医歯学総合病院血液浄化療法部 准教授
坂井健二　金沢大学附属病院 講師

A. 研究目的

われわれは令和 2～4 年度に及ぶ本研究計画で、(1) 病理コンサルテーション体制を中心とするアミロイドーシスの総合的診断体制を運用・発展させること、(2) 改訂診断基準に基づき、令和 3 年度に予定されている次回難病法改正にあわせ臨床調査個人票を改訂すること、(3) 各病型診療ガイドライン・ケアマニュアルと共に、新規重症度分類を作成すること、(4) 関連学会と連携して AMED 難病プラットフォームによるレジストリ研究を実施し、データを用いた疫学研究等を実施すること、(5) 非専門医向けセミナーや患者向けの公開講座等、アミロイドーシスの啓発活動を随時実施することの 5 項目を目指す。

本研究計画は、「難病の患者に対する医療等に関する法律」（難病法）の求める以下の課題を直接解決するものであり、厚生労働行政の施策に直接活用できる成果を期待できると考える。(a) 病理コンサルテーション体制を中心とするアミロイドーシスの総合的診断体制の運用により、正確な早期診断や、適切な施設での各病型に応じた最新の診療が可能になる。(b) 臨床調査個人票の改訂により、指定難病患者の認定を明確かつ容易に実施できる様になる。(c) アミロイドーシス診断基準・重症度分類・診療ガイドライン等の公表により、アミロイドーシス医療の水準向上（均てん化）に資することが出来る。(d) 難病プラットフォームによるレジストリ研究により、新規に発症するアミロイドーシス患者の実態・予後を正確に把握でき、難病政策を始め、新薬の薬価改定等の基礎資料を提供できる。(e) 関連学会との連携体制を構築し、アミロイドーシスの疾患概念、早期診断、および最新の治療に関し、関連学会や非専門医、患者、一般国民への普及・啓発を推進できる。(f) アミロイドーシス患者ケアマニュアルの作成等により、患者の療養生活環境整備や QOL 向上に資する事ができる。

B. 研究方法

【項目番号は研究の目的に対応】(1)～(4)の各項目は、第 1 回研究班会議（令和 3 年 8 月 27 日、ウェブ開催）、第 2 回研究班会議（令和 4 年 3 月 25 日、ウェブ開催）、および各 WG で随時開催するウェブ会議で議論・決定した。(5)は研究分担者の安東、植田、鈴木を中心に実施した。

（倫理面への配慮）

(1)に関し、個人情報保護には細心の注意を払った。また、オプトアウトにより対象患者に研究不参加の機会を与えた。福井大学医学系研究倫理審査委員会で「病理検体のアミロイドーシス病型診断コンサルテーション体制の構築」の受審・承認を得た（令和 4 年 1 月 26 日 Ver.1.7）。これを基に病理 WG 各施設で順次倫理審査を受審し承認を得た。本コンサルテーション体制の精度管理を行うため、われわれは診断総数及び各病型症例数（免疫染色で確定できずプロテオーム解析を実施した症例を含む）のみ集計した。このためコンサルテーション依頼施設での倫理審査は要求しなかった。(4)に関し、京都大学医の倫理審査委員会で中央倫理審査を受審し承認を得た（令和 3 年 11 月 8 日第 7.0 版）。

C. 研究結果

【項目番号は研究の目的に対応】
(1) 昨年度より 2 施設多い全国 9 施設（福井、東京医科歯科、慶應、信州、国立循環器病センター、山口、熊本、日本医科、京都府立医科）でカスタム抗体を共有し、コンサルテーション体制を運用した。昨年度集計後の 1 年間（令和 2 年 12 月～令和 3 年 11 月）で 1682 件のコンサルテーションを受け付け、1290 件の病型を確定した。月平均コンサルテーション件数も、昨年度集計時と比べ 1.3 倍に増加した。
(2) 全身性アミロイドーシス改定診断基準を作成し、日本腎臓学会、日本アミロイドーシス学会、日本神経学会、日本血液学会、日本循環器学会の承認を得た後、令和 2 年 3 月に公表した（http://amyloidosis-research-committee.jp/wp-content/uploads/2020/07/diagnostic_200702.pdf）。これを基に『概要、診断基準等』改定案を作成し、指定難病検討委員会に提出した。
(3) 研究班での議論や厚労省の指導を踏まえ、今回の『概要、診断基準等』、『臨床調査個人票』改訂では、重症度分類の改訂は行わないこととした。
(4) 令和 2 年 4 月 1 日より『オールジャパンで行う全身性アミロイドーシスコホート研究 J-COSSA』を開始した。登録開始以来、AL アミロイドーシス 43 症例、ATTRv アミロイドーシス 82 症例、ATTRwt アミロイドーシス 884 症例、計 1,009 症例の登録を終えた。登録数は昨年度集計時の 2.9 倍に増加した。本研究の一部として、トランスサイレチン型心アミロイドーシスに対するビンダケル処方患者のコホート研究を日本循環器学会と共に実施しており、12 月現在、日本循環器学会認定 100 施設が参加している。昨年度集計時は 79 施設であった（令和 2 年 8 月現在）。
(5) 熊本大学神経内科（植田光晴班員）が中心となり、熊本にて①患者・家族向け講演会「アミロイドーシスの診断サポート及び先進的な難病治療法」（7 月 31 日、患者・家族を含む総数 22 名参加）、②「道しるべの会」（FAP 家族性アミロイドポリニューロパチー患者・家族会）総会・講演会（8 月 1 日、患者・家族 19 名を含む総数 50 名参加）、③患者・家族向け講演会「眼アミロイドーシスの診療と眼をまもるための取り組み」（9 月 19 日、患者・家族 21 名を含む総数 39 名参加）をハイブリッド開催した。日本赤十字社医療センター骨髄腫アミロイドーシスセンター（鈴木憲史班員）が中心となり、AL アミロイドーシス患者・家族向けセミナー「進化する AL アミロイドーシス治療」（10 月 31 日、当日のオンライン参加者 130 名、その後の YouTube 配信では 450 回視聴）をウェブ開催した。

D. 考察【項目番号は研究の目的に対応】
(1) 来年度、新たに東京女子医科大学、東京都健康長寿医療センターを担当施設に加え、体制の安定化と次世代育成に努める。
(2) 来年度、『概要、診断基準等』改定案が指定難病検討委員会で承認された後、『臨床調査個人票』改定案を提出する予定である。

E. 結論
全国 9 施設でカスタム抗体を共有し、コンサルテーション体制を運用した。全身性アミロイドーシス改定診断基準を基に『概要、診断基準等』改定案を作成し、指定難病検討委員会に提出した。『オールジャパンで行う全身性アミロイドーシスコホート研究 J-COSSA』の登録開始以来、AL アミロイドーシス 43 症例、ATTRv アミロイドーシス 82 症例、ATTRwt アミロイドーシス 884 症例、計 1,009 症例の登録を終えた。熊本にて①患者・家族向け講演会「アミロイドーシスの診断サポート及び先進的な難病治療法」、②「道しるべの会」（FAP 家族性アミロイドポリニューロパチー患者・家族会）総会・講演会、③患者・家族向け講演会「眼アミロイドーシスの診療と眼をまもるための取り組み」を開催した。AL アミロイドーシス患者・家族向けセミナー「進化する AL アミロイドーシス治療」をウェブ開催した。

F. 健康危険情報
なし。

G. 研究発表
1. 論文発表
内木宏延
1) Tateishi Y, Yamada Y, Katsuki M, Nagata T, Yamamoto H, Kohashi K, Koga Y, Hashisako M, Kiyozawa D, Mori T, Kuboyama Y, Kakinokizono A,

Miyazaki Y, Yamaguchi A, Tsutsui H, Ninomiya T, Naiki H, Oda Y. Pathological review of cardiac amyloidosis using autopsy cases in a single Japanese institution. *Pathol Res Pract* 227: 153635, 2021.
2) Fujimoto T, Yamano T, Miyagawa-Hayashino A, Naiki H, Ueda M, Tasaki M, Yamano M, Zen K, Numata S, Matoba S. Case with transthyretin amyloid cardiomyopathy complicated with rapidly progressive aortic stenosis possibly caused by amyloid deposition in the aortic valve. *Circ Cardiovasc Imaging* 14(11): e013357, 2021.
3) Tanaka T, Naito T, Midori Y, Nosaka T, Takahashi K, Ofuji K, Matsuda H, Ohtani M, Hiramatsu K, Imamura Y, Yokoyama O, Naiki H, Nakamoto Y. Gastrointestinal AA amyloidosis secondary to chronic pyelonephritis presenting with refractory diarrhea and severe hypoalbuminemia. *Clin J Gastroenterol* 14(6): 1642-1648, 2021.
4) Shintani-Domoto Y, Ishino K, Naiki H, Sakatani T, Ohashi R. Autopsy case with concurrent transthyretin and immunoglobulin amyloidosis. *Pathol Int* 72(1): 65-71, 2022.
5) 内木 宏延. 蓄積病・アミロイドーシス. *病理と臨床* 39(臨増): 266-269, 2021.
6) 池田 善彦, 内木 宏延. 心アミロイドーシス. *病理と臨床* 39(10): 988-992, 2021.

安東由喜雄

1) Matsushita H, Isoguchi A, Okada M, Masuda T, Misumi Y, Tsutsui C, Yamaguchi N, Ichiki Y, Sawashita J, Ueda M, Mizuguchi M, Ando Y. Glavonoid, a possible supplement for prevention of ATTR amyloidosis. *Heliyon* 7(10): e08101, 2021.
2) Inoue Y, Masuda T, Misumi Y, Ando Y, Ueda M. Metformin attenuates vascular pathology by increasing expression of insulin-degrading enzyme in a mixed model of cerebral amyloid angiopathy and type 2 diabetes mellitus. *Neurosci Lett* 762: 13136, 2021.
3) Dorbala S, Ando Y, Bokhari S, Dispenzieri A, Falk RH, Ferrari VA, Fontana M, Gheysens O, Gillmore JD, Glaudemans AWJM, Hanna MA, Hazenberg BPC, Kristen AV, Kwong RY, Maurer MS, Merlini G, Miller EJ, Moon JC, Murthy VL, Quarta CC, Rapezzi C, Ruberg FL, Shah SJ, Slart RHJA, Verberne HJ, Bourque JM. ASNC/AHA/ASE/EANM/HFSA/ISA/SCMR/SNMMI expert consensus recommendations for multimodality imaging in cardiac amyloidosis: part 1 of 2-evidence base and standardized methods of imaging. *Circ Cardiovasc* 14(7): e000029, 2021.
4) Tasaki M, Lavatelli F, Obici L, Obayashi K, Miyamoto T, Merlini G, Palladini G, Ando Y, Ueda M. Age-related amyloidosis outside the brain: A state-of-the-art review. *Ageing Res Rev* 70: 101388, 2021.
5) Coelho T, Ando Y, Benson MD, Berk JL, Waddington-Cruz M, Dyck PJ, Gillmore JD, Khella SL, Litchy. Design and rationale of the global phase 3 NEURO-TTRansform study of antisense oligonucleotide AKCEA-TTR-L(Rx) (ION-682884-CS3) in hereditary transthyretin-mediated amyloid polyneuropathy. *Neurol Ther* 10(1): 375-389, 2021.
6) Waddington-Cruz M, Wixner J, Amass L, Kiszko J, Chapman D, Ando Y; THAOS investigators. Characteristics of patients with late- vs. early-onset Val30Met transthyretin amyloidosis from the transthyretin amyloidosis outcomes survey (THAOS). *Neurol Ther* 10(2): 753-766, 2021.
7) Waddington-Cruz M, Ando Y, Amass L, Kiszko J, Chapman D, Sekijima Y; THAOS investigators. Feasibility of assessing progression of transthyretin amyloid polyneuropathy using nerve conduction studies: Findings from the transthyretin amyloidosis outcomes survey (THAOS). *J Peripher Nerv Syst* 26(2): 160-166, 2021.
8) Inoue Y, Ando Y, Misumi Y, Ueda M. Current management and therapeutic strategies for cerebral amyloid angiopathy. *Int J Mol Sci* 22(8): 3869, 2021.
9) 田崎 雅義, 大林 光念, 安東 由喜雄, 植田 光晴. 新規アミロイド原因蛋白質 EFEMP1 の同定および本分子の疾患との関連. *臨床化学* 50(2): 124-129, 2021.
10) 安東 由喜雄. 私の治療「アミロイドーシス」*日本医事新報* 5069: 41-42, 2021.

関島良樹

1) Abe R, Katoh N, Takahashi Y, Takasone K, Yoshinaga T, Yazaki M, Kametani F, Sekijima Y. Distribution of amyloidosis subtypes based on tissue biopsy site - Consecutive analysis of 729 patients at a single amyloidosis center in Japan. *Pathol Int* 71(1): 70-7, 2021.
2) Aono Y, Hamatani Y, Katoh N, Nakagawa M, Nakamura K, Yazaki M, Kametani F, Iguchi M, Murakami I, Ogawa H, Abe M, Akao M, Sekijima Y. Late-onset Hereditary ATTR Amyloidosis with a Novel p.P63S (P43S) Transthyretin Variant. *Intern Med* 60(4): 557-561, 2021.
3) Garcia-Pavia P, Bengel F, Brito D, Damy T, Duca F, Dorbala S, Nativi-Nicolau J, Obici L, Rapezzi C, Sekijima Y, Elliott PM. Expert consensus on the monitoring of transthyretin amyloid cardiomyopathy. *Eur J Heart Fail* 23(6): 895-905, 2021.
4) Ichimata S, Katoh N, Abe R, Yoshinaga T, Kametani F, Yazaki M, Uehara T, Sekijima Y. A case of novel amyloidosis: glucagon-derived amyloid deposition associated with pancreatic neuroendocrine tumour. *Amyloid* 28(1): 72-73, 2021.
5) Waddington-Cruz M, Ando Y, Amass L, Kiszko J, Chapman D, Sekijima Y, THAOS investigators. Feasibility of assessing progression of transthyretin amyloid polyneuropathy using nerve conduction studies: Findings from the Transthyretin Amyloidosis Outcofmes Survey (THAOS). *J Peripher Nerv Syst* 26(2): 160-166, 2021.
6) Yanagisawa S, Takahashi Y, Sasaki J, Takasone K, Yoshie K, koyama J,Katoh N, Yazaki M, Kuwahara K, Sekijima Y. Absolute quantitative analysis of cardiac amyloidosis using SPECT/CT with 99mTc-pyrophosphate. *Amyloid* 28(3): 213-214, 2021.
7) Ichimata S, Katoh N, Abe R, Yoshinaga T, Kametani F, Yazaki M, Kusama Y, Sano K, Uehara T, Sekijima Y. Somatostatin-derived amyloid deposition associated with duodenal neuroendocrine tumour (NET): a report of novel localised. amyloidosis associated with NET. *Amyloid* 29(1): 64-65, 2022.
8) 関島 良樹. 遺伝性 ATTR アミロイドーシス. *Pharma Medica* 39(3): 39-43, 2021.
9) 関島 良樹. アミロイドーシス治療の進歩.*日本内科学会雑誌* 110(6): 1170-1177, 2021.
10) 関島 良樹. ATTR アミロイドーシスは決してめずらしい病気ではない. *内科* 12(3): 617-619, 2021.
10) 関島 良樹. アミロイドニューロパチー. *CLINICAL NEUROSCIENCE* 39(11): 1444-1446, 2021.
11) 中村 勝哉, 関島 良樹. 遺伝性神経疾患の遺伝カウンセリングと発症前診断. *臨床神経学* 61(9): 588-593, 2021.
12) 関島 良樹. アミロイドニューロパチー. 福井次矢、高木 誠、小室 一成 編集, *今日の治療方針 私はこう治療している*, 1014-1015, 医学書院, 東京, 2021.
13) 関島 良樹. RNA 干渉による遺伝性 ATTR アミロイドーシス治療, 鈴木 則宏、荒木 信夫、宇川義一, 桑原 聡, 塩川 芳昭 編集, *Annual Review 神経 2021*, 302-309, 中外医学社, 東京, 2021.
14) 関島 良樹. 遺伝性アミロイドーシス, 蒔田芳男、櫻井 晃洋 編集, *臨床遺伝専門医テキスト ④各論III 臨床遺伝学成人領域*, 診断と治療社, 94-97, 東京, 2021.
15) 関島 良樹. 脳アミロイドアンギオパチー. 下畑 享良 編集, *脳神経内科診断ハンドブック*, 37-41, 東京, 2021.
16) 関島 良樹. アミロイドーシスによる神経障害. 下畑 享良 編集, *脳神経内科診断ハンドブック*, 288-292, 東京, 2021.

植田光晴

1) Ueda M. Transthyretin: its function and amyloid formation. *Neurochem Int* 155: 105313, 2022.
2) Tahara N, Lairez O, Endo J, Okada A, Ueda M, Ishii T, Kitano Y, Lee H, Russo E, Kubo T. 99mTechnetium-pyrophosphate scintigraphy: a practical guide for early diagnosis of transthyretin amyloid cardiomyopathy. *ESC Heart Fail* 9: 251-262, 2022.
3) Tasaki M, Lavatelli F, Obici L, Obayashi K, Miyamoto T, Merlini G, Palladini G, Ando Y, Ueda M. Age-related amyloidosis outside the brain: A state-of-the-art review. *Ageing Research Reviews* 70:

101388, 2021.
4) Inomata T, Tahara N, Nakamura K, Endo J, Ueda M, Ishii T, Kitano Y, Koyama J. Diagnosis of wild-type transthyretin amyloid cardiomyopathy in Japan: red-flag symptom clusters and diagnostic algorithm. *ESC Heart Fail* 8: 2647-2659, 2021.
5) Inoue Y, Ando Y, Misumi Y, Ueda M. Current management and therapeutic strategies for cerebral amyloid angiopathy. *Int J Mol Sci* 22: 3869, 2021.
6) Yumoto S, Doi K, Higashi T, Shimao Y, Ueda M, Ishihara A, Adachi Y, Ishiodori H, Honda S, Baba H. Intra-abdominal bleeding caused by amyloid transthyretin amyloidosis in the gastrointestinal tract: a case report. *Clin J Gastroenterol* 15: 140-145, 2022.
7) Tasaki M, Oishi T, Ueda M. EGF-containing fibulin-like extracellular matrix protein 1 (EFEMP1) amyloid deposits in the lower rectum from aged patient with bloody stools. *Pathol Int* 72(3): 217-218, 2022.
8) Benson MD, Berk JL, Dispenzieri A, Damy T, Gillmore JD, Hazenberg BP, Lavatelli F, Picken MM, Röcken C, Schönland S, Ueda M, Westermark P. Tissue biopsy for the diagnosis of amyloidosis: experience from some centres. *Amyloid* 29: 8-13, 2022.
9) Takashio S, Yamada T, Nishi M, Morioka M, Nakashima N, Hirakawa K, Hanatani S, Usuku H, Yamamoto E, Ueda M, Matsushita K, Kaikita K, Tsujita K. Sex-related differences in the clinical characteristics of wild-type transthyretin amyloidosis cardiomyopathy. *J Cardiol* 79: 50-57, 2022.
10) Fujimoto T, Yamano T, Miyagawa-Hayashino A, Naiki H, Ueda M, Tasaki M, Yamano M, Zen K, Numata S, Matoba S. A case with transthyretin amyloid cardiomyopathy complicated with rapidly progressive aortic stenosis possibly caused by amyloid deposition in the aortic valve. *Circ Cardiovasc Imaging* 14: e013357, 2021.
11) Nakashima N, Takashio S, Morioka M, Nishi M, Hirakawa K, Hanatani S, Masuda T, Ueda M, Tsujita K. Preclinical diagnosis of wild-type transthyretin amyloid cardiomyopathy in a patient undergoing carpal tunnel release. *J Cardiol Cases* 24: 250-253, 2021.
12) Oike F, Usuku H, Yamamoto E, Yamada T, Egashira K, Morioka M, Nishi M, Komorita T, Hirakawa K, Tabata N, Yamanaga K, Fujisue K, Hanatani S, Sueta D, Arima Y, Araki S, Takashio S, Oda S, Misumi Y, Kawano H, Matsushita K, Ueda M, Matsui H, Tsujita K. Prognostic value of left atrial strain in patients with wild-type transthyretin amyloid cardiomyopathy. *ESC Heart Fail* 8: 5316-5326, 2021.
13) Maeda K, Kubota Y, Kitagawa S, Ueda M, Ando Y, Ito Y. The prostate as a good candidate organ for proving amyloid deposition in non-endemic late onset hereditary transthyretin amyloidosis: Report of two cases. *J Neurol Sci* 424: 117418, 2021.
14) Ohya Y, Tasaki M, Hayashida S, Katayama N, Tsuchida T, Kuriwaki K, Ueda M, Inomata Y. Carpal tunnel syndrome due to iatrogenic amyloidosis after domino liver transplantation from hereditary transthyretin amyloidosis: a case report. *Transplant Proc* 53: 1313-1316, 2021.
15) Okada M, Misumi Y, Masuda T, Takashio S, Tasaki M, Matsushita H, Ueda A, Inoue Y, Nomura T, Nakajima M, Yamashita T, Shinriki S, Matsui H, Tsujita K, Ando Y, Ueda M. Plasma growth differentiation factor 15: A novel tool to detect early changes of hereditary transthyretin amyloidosis. *ESC Heart Fail* 8: 1178-1185, 2021.
16) Tasaki M, Okada M, Yanagisawa A, Nomura T, Ueda A, Inoue Y, Masuda T, Misumi Y, Yamashita T, Miyamoto T, Obayashi K, Ando Y, Ueda M. Apolipoprotein AI amyloid deposits in the ligamentum flavum in patients with lumbar spinal canal stenosis. *Amyloid* 28: 107-112, 2021.
17) Tsukamoto Y, Tasaki M, Fujii H, Tsujie M, Ueda M. EGF-containing fibulin-like extracellular matrix protein 1 amyloid incidentally found in surgically resected specimens of colon cancer: a case report emphasizing on an unrecognized type. *Amyloid* 28: 136-137, 2021.
18) Adams D, Polydefkis M, Gonzalez-Duarte A, Wixner J, Kristen A, Schmidt H, Berk J, López I, Dispenzieri A, Conceiçao I, Slama M, Gillmore J, Kyriakides T, Ajroud-Driss S, Waddington-Cruz M,

Mezei M, Plante-Bordeneuve V, Attarian S, Mauricio E, Brannagan T, Ueda M, Aldinc E, Wang J, White M, Vest J, Berber E, Sweetser M, Coelho T. Long-term safety and efficacy of patisiran for hereditary transthyretin-mediated amyloidosis with polyneuropathy: 12-month results of an open-label extension study. *Lancet Neurol* 20: 49-59, 2021.

島崎千尋

1) Kastritis E, Palladini G, Minnema MC, Wechalekar AD, Jaccard A, Lee HC, Sanchorawala V, Gibbs S, Mollee P, Venner CP, Lu J, Schönland S, Gatt ME, Suzuki K, Kim K, Cibeira MT, Beksac M, Libby E, Valent J, Hungria V, Wong SW, Rosenzweig M, Bumma N, Huart A, Dimopoulos MA, Bhutani D, Waxman AJ, Goodman SA, Zonder JA, Lam S, Song K, Hansen T, Manier S, Roeloffzen W, Jamroziak K, Kwok F, Shimazaki C, Kim JS, Crusoe E, Ahmadi T, Tran N, Qin X, Vasey SY, Tromp B, Schecter JM, Weiss BM, Zhuang SH, Vermeulen J, Merlini G, Comenzo RL; ANDROMEDA Trial Investigators. Daratumumab-based treatment for immunoglobulin light-chain amyloidosis. *N Engl J Med* 385: 46-58, 2021.
2) Takakuwa T, Yamamura R, Ohta K, Kaneko H, Imada K, Nakaya A, Fuchida SI, Shibayama H, Matsuda M, Shimazu Y, Adachi Y, Kosugi S, Uchiyama H, Tanaka H, Hanamoto H, Shimura Y, Kanda J, Onda Y, Uoshima N, Yagi H, Yoshihara S, Hino M, Shimazaki C, Takaori-Kondo A, Kuroda J, Matsumura I, Kanakura Y, Nomura S. Outcomes of ixazomib/lenalidomide/dexamethasone for multiple myeloma: A multicenter retrospective analysis. *Eur J Haematol* 106(4): 555-562, 2021.
3) Takakuwa T, Ohta K, Nakatani E, Ito T, Kaneko H, Fuchida SI, Shimura Y, Yagi H, Shibayama H, Kanda J, Uchiyama H, Kosugi S, Tanaka H, Kawata E, Uoshima N, Ishikawa J, Shibano M, Karasuno T, Shindo M, Shimizu Y, Imada K, Kanakura Y, Kuroda J, Hino M, Nomura S, Takaori-Kondo A, Shimazaki C, Matsumura I. Plateau is a prognostic factor of lenalidomide therapy for previously treated multiple myeloma. *Hematol Oncol* 39(3): 349-357, 2021.
4) Kawaji-Kanayama Y, Kobayashi T, Muramatsu A, Uchiyama H, Sasaki N, Uoshima N, Nakao M, Takahashi R, Shimura K, Kaneko H, Kiyota M, Wada K, Chinen Y, Hirakawa K, Fuchida SI, Shimazaki C, Matsumura-Kimoto Y, Mizutani S, Tsukamoto T, Shimura Y, Horiike S, Taniwaki M, Kuroda J; Kyoto Clinical Hematology Study Group (KOTOSG) Investigators. Prognostic impact of resistance to bortezomib and/or lenalidomide in carfilzomib-based therapies for relapsed/refractory multiple myeloma: The Kyoto Clinical Hematology Study Group, multicenter, pilot, prospective, observational study in Asian patients. *Cancer Rep (Hoboken)* 14: e1476, 2021.
5) Nakaya A, Shibayama H, Nakatani E, Shimura Y, Kosugi S, Tanaka H, Fuchida S, Kanda J, Uoshima N, Kaneko H, Imada K, Ohta K, Ito T, Yagi H, Yoshihara S, Hino M, Shimazaki C, Takaori-Kondo A, Kuroda J, Matsumura I, Kanakura Y, NomuraS. Significance of maintenance therapy after HDT/ASCT in symptomatic multiple myeloma: A multicenter retrospective analysis in Kansai Myeloma Forum. *eJHem* 2: 765-773, 2021.
6) Katsuragawa-Taminishi Y, Ide D, Maegawa-Matsui S, Fuchida S, Hatsuse M, Murakami S, Kuroda J, Shimazaki C. Acquired amegakaryocytic thrombocytopenic purpura that presented as cyclic thrombocytopenia associated with anti-phospholipid antibody syndrome. *Clin Hematol Res* 4: 42-46, 2021.

飯田真介

1) Iida S, Ishikawa T, Min CK, Kim K, Yeh SP, Usmani SZ, Mateos M-V, Nahi H, Hueck C, Qin X, Parasrampuria DA, Gries KS, Qi M, Bahlis N, Ito S. Subcutaneous daratumumab in Asian patients with heavily pretreated multiple myeloma: subgroup analyses of the noninferiority, phase 3 COLUMBA study. *Ann Hematol* 100: 1065-1077, 2021.
2) Iida S, Izumi T, Komeno T, Terui Y, Chou T, Ikeda T, Berg D, Fukunaga S, Sugiura K, Sasaki M. A phase 2, open-label, multicenter study of ixazomib plus lenalidomide and dexamethasone in adult Japanese

patients with relapsed and/or refractory multiple myeloma. *Int J Clin Oncol* 27: 224-233, 2021.
3) Ri M, Iida S, Maruyama D, Sakabe A, Kamei R, Nakashima T, Tohkn M, Osaga S, Tobinai K, Fukuhara N, Miyazaki K, Tsukamoto N, Tsujimura H, Yoshimitsu M, Miyamoto K, Tsukasaki K, Nagai H. HLA genotyping in Japanese patients with multiple myeloma receiving bortezomib: an exploratory biomarker study of JCOG1105 (JCOG1105A1). *Cancer Sci* 112: 5011-5019, 2021.
4) Avet-Loiseau H, San-Miguel J, Casneuf T, Iida S, Lonial S, Usmani SZ, Spencer A, Moreau P, Plesner T, Weisel K, Ukropec J, Chiu C, Trivedi S, Amin H, Krevvata M, Ramaswami P, Qin X, Qi M, Sun S, Qi M, Kobos R, Bahlis NJ. Evaluation of sustained minimal residual disease negativity with daratumumab-combination regimens in relapsed/refractory multiple myeloma: analysis of POLLUX and CASTOR. *J Clin Oncol* 39: 1139-1149, 2021.
5) Cavo M, San-Miguel J, Usmani SZ, Weisel K, Dimopoulos MA, Avet-Loiseau H, Paiva B, Bahlis NJ, Plesner T, Hungria V, Moreau P, Mateos M-V, Perrot A, Iida S, Facon T, Kumar S, van de Donk NWCJ, Sonneveld P, Spencer A, Krevvata M, Heuck C, Wang J, Ukropec J, Kobos R, Sun S, Qi M, Munshi N. Prognostic value of minimal residual disease negativity in myeloma: combined analysis of POLLUX, CASTOR, ALCYONE, MAIA. *Blood* 139: 835-844, 2022.
6) Suzuki N, Okuyama T, Akechi T, Kusumoto S, Ri M, Inagaki A, Kayukawa S, Yano H, Yoshida T, Shiraga K, Hashimoto H, Aiki S, Iida S. Symptoms and health-related quality of life in patients with newly diagnosed multiple myeloma: a multicenter prospective cohort study. *Jpn J Clin Oncol* 52: 163-169, 2022.
7）飯田 真介. 分子標的薬による MGRS の治療 腎と透析 92: 463-466, 2022.

小池春樹

1) Koike H, Nishi R, Ohyama K, Morozumi S, Kawagashira Y, Furukawa S, Mouri N, Fukami Y, Iijima M, Sobue G, Katsuno M. ANCA-associated vasculitic neuropathies: a review. *Neurol Ther* 11(1): 21-38, 2022.
2) Koike H, Katsuno M. Paraproteinemia and neuropathy. *Neurol Sci* 42(11): 4489-4501, 2021.
3) Koike H, Iguchi Y, Sahashi K, Katsuno M. Significance of Oligomeric and Fibrillar Species in Amyloidosis: Insights into Pathophysiology and Treatment. *Molecules* 26(16): 5091, 2021.
4) Koike H, Katsuno M. The Ultrastructure of Tissue Damage by Amyloid Fibrils. *Molecules* 26(15): 4611, 2021.
5) Koike H, Katsuno M. The role of macrophages in Guillain-Barré syndrome and chronic inflammatory demyelinating polyneuropathy. *Neurol Clin Neurosci* 9(3): 203-210, 2021.
6) Koike H, Okumura T, Murohara T, Katsuno M. Multidisciplinary Approaches for Transthyretin Amyloidosis. *Cardiol Ther* 10(2): 289-311, 2021.
7) Koike H, Chiba A, Katsuno M. Emerging Infection, Vaccination, and Guillain-Barré Syndrome: A Review. *Neurol Ther* 10(2): 523-537, 2021.
8) Koike H, Katsuno M. Macrophages and Autoantibodies in Demyelinating Diseases. *Cells* 10(4): 844, 2021.
9) Koike H, Mouri N, Fukami Y, Iijima M, Matsuo K, Yagi N, Saito A, Nakamura H, Takahashi K, Nakae Y, Okada Y, Tanaka F, Sobue G, Katsuno M. Two distinct mechanisms of neuropathy in immunoglobulin light chain (AL) amyloidosis. *J Neurol Sci* 421: 117305, 2021.
10) Hsueh HW, Chao CC, Chang K, Jeng YM, Katsuno M, Koike H, Hsieh ST. Unique Phenotypes With Corresponding Pathology in Late-Onset Hereditary Transthyretin Amyloidosis of A97S vs. V30M. *Front Aging Neurosci* 13: 786322, 2022.
11) Jozuka R, Kimura H, Uematsu T, Fujigaki H, Yamamoto Y, Kobayashi M, Kawabata K, Koike H, Inada T, Saito K, Katsuno M, Ozaki N. Severe and long-lasting neuropsychiatric symptoms after mild respiratory symptoms caused by COVID-19: A case report. *Neuropsychopharmacol Rep* 42(1): 114-119, 2022.

12) Ando T, Nakamura R, Kuru S, Yokoi D, Atsuta N, Koike H, Suzuki M, Hara K, Iguchi Y, Harada Y, Yoshida Y, Hattori M, Murakami A, Noda S, Kimura S, Sone J, Nakamura T, Goto Y, Mano K, Okada H, Okuda S, Nishino I, Ogi T, Sobue G, Katsuno M. The wide-ranging clinical and genetic features in Japanese families with valosin-containing protein proteinopathy. *Neurobiol Aging* 100: 120.e1-120.e6, 2021.
13) Yamada S, Hashizume A, Hijikata Y, Ito D, Kishimoto Y, Iida M, Koike H, Hirakawa A, Katsuno M. Ratio of urinary N-terminal titin fragment to urinary creatinine is a novel biomarker for amyotrophic lateral sclerosis. *J Neurol Neurosurg Psychiatry* 92(10): 1072-1079, 2021.
14) Fukami Y, Iijima M, Koike H, Yamada S, Hashizume A, Katsuno M. Association of serum neurofilament light chain levels with clinicopathology of chronic inflammatory demyelinating polyneuropathy, including NF155 reactive patients. *J Neurol* 268(10): 3835-3844, 2021.
15) Oishi M, Mukaino A, Kunii M, Saito A, Arita Y, Koike H, Higuchi O, Maeda Y, Abiru N, Yamaguchi N, Kawano H, Tsuiki E, Tanaka T, Matsuo H, Katsuno M, Tanaka F, Tsujino A, Nakane S. Association between neurosarcoidosis with autonomic dysfunction and anti-ganglionic acetylcholine receptor antibodies. *J Neurol* 268(11): 4265-4279, 2021.
16) Sommer C, Carroll AS, Koike H, Katsuno M, Ort N, Sobue G, Vucic S, Spies JM, Doppler K, Kiernan MC. Nerve biopsy in acquired neuropathies. *J Peripher Nerv Syst* 26(Suppl 2): S21-S41, 2021.
17) 小池 春樹. その他のニューロパチー（糖尿病性，傍腫瘍性，薬剤性ニューロパチー）. In: 永田 栄一郎, 伊藤 義彰, editor. 脳神経内科学レビュー 2022-'23, 総合医学社, 東京, 235-240, 2022.
18) 小池 春樹. 多発ニューロパチー. In: 福井 次矢, 高木 誠, 小室 一成, editor. 今日の治療指針 2022年版, 医学書院, 東京, 1009, 2022.
19) 小池 春樹. 免疫介在性ニューロパチーの超微形態学. In: 鈴木 則宏, 荒木 信夫, 宇川 義一, 桑原 聡, 塩川 芳昭, edotor. Annual Review 神経 2021、中外医学社, 東京, 294-301, 2021.
20) 小池 春樹. 限局性血管炎に伴う神経障害. In: 下畑享良, editor. 脳神経内科診断ハンドブック, 中外医学社, 東京, 559-562, 2021.
21) 小池 春樹. 自律神経障害（多系統萎縮症を含む）. In: 福井 次矢, 高木 誠, 小室 一成, editor. 今日の治療指針 2021年版, 医学書院 990-991, 2021.
22) 小池 春樹. 自己免疫性自律神経障害. In: 園生 雅弘, 北川 一夫, 青木 正志, editor. 脳神経疾患最新の治療 2021-2023, 南江堂, 東京, 254-255, 2021.
23) 小池 春樹. ANCA関連血管炎における末梢神経病変. *リウマチ科* 66(6): 608-614, 2021.
24) 小池 春樹. 神経疾患研究の現状の課題と展望 全身性疾患における神経障害. *Clinical Neuroscience* 39(10): 1286-1290, 2021.
25) 小池 春樹. 自己免疫性自律神経ニューロパチーの臨床像と治療法. *脳神経内科* 95(2): 172-176, 2021.
26) 小池 春樹. 純粋自律神経不全症型のレビー小体病と免疫介在性自律神経ニューロパチー. *自律神経* 58(2): 199-203, 2021.
27) 仁紫 了爾, 小池 春樹, 勝野 雅央. 好酸球性多発血管炎性肉芽腫症に伴う末梢神経障害 ANCAとIL-5の意義も含めて. *末梢神経* 32(1): 68-74, 2021.
28) 望月 秀樹, 青木 正志, 池中 建介, 井上 治久, 岩坪 威, 宇川 義一, 岡澤 均, 小野 賢二郎, 小野寺 理, 北川 一夫, 齊藤 祐子, 下畑 享良, 高橋 良輔, 戸田 達史, 中原 仁, 松本 理器, 水澤 英洋, 三井 純, 村山 繁雄, 勝野 雅央, 青木 吉嗣, 石浦 浩之, 和泉 唯信, 小池 春樹, 島田 斉, 高橋 祐二, 徳田 隆彦, 中嶋 秀人, 波田 野琢, 三澤 園子, 渡辺 宏久, 水澤 英洋, 阿部 康二, 宇川 義一, 梶 龍兒, 亀井 聡, 神田 隆, 吉良 潤一, 楠 進, 鈴木 則宏, 祖父江 元, 高橋 良輔, 辻 省次, 中島 健二, 西澤 正豊, 服部 信孝, 福山 秀直, 峰松 一夫, 村山 繁雄, 望月 秀樹, 山田 正仁, 日本神経学会将来構想委員会. 脳神経疾患克服に向けた研究推進の提言2020、総論. *臨床神経学* 61(11): 709-721, 2021.

西　慎一

1) Fujii H, Kono K, Goto S, Watanabe K, Nishii T, Kono A, Nishi S. Evaluation of Aortic Calcification Using a Three-Dimensional Volume-Rendering Method in Patients with Chronic Kidney Disease. *J Bone Miner Meta* 39(3): 439-445, 2021.
2)西慎一. 指定難病 アミロイドーシスに対する対策. *腎臓内科* 13(1): 77-85, 2021.

星野純一

1) Mizuno H, Hoshino J (co-first), So M, Kogure Y, Fujii T, Ubara Y, Takaichi K, Nakaniwa T, Tanaka H, Kurisu G, Kametani F, Nakagawa M, Yoshinaga T, Sekijima Y, Higuchi K, Goto Y, Yazaki M. Dialysis-related amyloidosis associated with a novel β2-microglobulin variant. *Amyloid* 28(1): 42-49, 2021.
2) Hoshino J, Tsunoda R, Nagai K, Kai H, Saito C, Ito Y, Asahi K, Kondo M, Iseki K, Iseki C, Okada H, Kashihara N, Narita I, Wada T, Combe C, Pisoni RL, Robinson BM, Yamagata K. Comparison of annual eGFR decline among primary kidney diseases in patients with CKD G3b-5: results from a REACH-J CKD cohort study. *Clin Exp Nephrol* 25(8): 902-910, 2021.
3) Hatano M, Kitajima I, Yamamoto S, Nakamura M, Isawa K, Suwabe T, Hoshino J, Sawa N, Ubara Y. Dialysis-related carpal tunnel syndrome in the past 40 years. *Clin Exp Nephrol* 26(1): 68-74, 2022.
4) Fukuda M, Sawa N, Hoshino J, Ohashi K, Motoaki M, Ubara Y. Tocilizumab preserves renal function in rheumatoid arthritis with AA amyloidosis and end-stage kidney disease: Two case reports. *Clin Nephrol* 95(1): 54-61, 2021.
5) 花房 規男(日本透析医学会), 阿部 雅紀, 常喜 信彦, 星野 純一, 菊地 勘, 後藤 俊介, 神田 英一郎, 谷口 正智, 中井 滋, 長沼 俊秀, 長谷川 毅, 三浦 健一郎, 和田 篤志, 武本 佳昭, 日本透析医学会統計調査委員会. わが国の慢性透析療法の現況(2020 年 12 月 31 日現在). *日本透析医学会雑誌* 54(12): 611-657, 2021.

山田俊幸

1) Kamei R, Sawahata M, Yoshizumi N, Sata M, Nakayama M, Yamada T, Taniguchi N, Suzuki T, Bando M, Hagiwara K. Pulmonary mycobacterium avium complex disease complicated by cancer: an 11-year survey at a single center. *J Rural Med* 16: 72-76, 2021.

小野賢二郎

1) Futamura A, Hieda S, Mori Y, Sugimoto A, Kasai H, Kuroda T, Yano S, Kasuga K, Murakami H, Ikeuchi T, Ono K. Cingulate Island Sign in Single Photon Emission Computed Tomography: Clinical Biomarker Correlations in Lewy Body Disease and Alzheimer's Disease. *J Alzheimers Dis* 79: 1003-1008, 2021.
2) Futamura A, Hieda S, Mori Y, Kasuga K, Sugimoto A, Kasai H, Kuroda T, Yano S, Tsuji M, Ikeuchi T, Irie K, Ono K. Toxic amyloid-β_{42} conformer may accelerate the onset of Alzheimer's disease in the preclinicalstage. *J Alzheimers Dis* 80: 639-646, 2021.
3) Hamaguchi T, Kim JH, Hasegawa A, Goto R, Sakai K, Ono K, Itoh Y, Yamada M. Exogenous Aβ seeds induce Aβ depositions in the blood vessels rather than the brain parenchyma, independently of Aβ strain-specific information. *Acta Neuropathol Commun* 9:151, 2021.
4) Ibrahim NF, Hamezah HS, Yanagisawa D, Tsuji M, Kiuchi Y, Ono K, Tooyama I. The effect of α-tocopherol, α- and γ-tocotrienols on amyloid-β aggregation and disaggregation in vitro. *Biochem Biophys Rep* 28: 101131, 2021.
5) Kimura A, Tsuji M, Yasumoto T, Mori Y, Oguchi T, Tsuji Y, Umino M, Umino A, Nishikawa T, Nakamura S, Inoue T, Yamada M, Teplow DB, Kiuchi Y, Ono K. Myricetin prevents high molecular weight $A\beta_{1-42}$ oligomer-induced neurotoxicity through antioxidant effects in cell membranes and mitochondria. *Free Radic Biol Med* 171: 232-244, 2021.
6) Kuroda T, Honma M, Mori Y, Futamura A, Sugimoto A, Kasai H, Yano S, Hieda S, Kasuga K, Ikeuchi T, Ono K. White Matter Lesions May Aid in Differentiating Idiopathic Normal Pressure Hydrocephalus and Alzheimer's Disease. *J Alzheimers Dis* 85: 851-862, 2022.
7) Mori Y, Tsuji M, Oguchi T, Kasuga K, Kimura A, Futamura A, Sugimoto A, Kasai H, Kuroda T, Yano S,

Hieda S, Kiuchi Y, Ikeuchi T, Ono K. Serum BDNF as a Potential Biomarker of Alzheimer's Disease: Verification Through Assessment of Serum, Cerebrospinal Fluid, and Medial Temporal Lobe Atrophy. *Front Neurol* 12: 653267, 2021.
8) Nakano H, Hamaguchi T, Ikeda T, Watanabe-Nakayama T, Ono K, Yamada M. Inactivation of seeding activity of amyloid β-protein aggregates in vitro. *J Neurochem* 160: 499-516, 2022.
9) Sakai K, Noguchi-Shinohara M, Ikeda T, Hamaguchi T, Ono K, Yamada M. Cerebrospinal fluid cytokines and metalloproteinases in cerebral amyloid angiopathy-related inflammation. *Acta Neurol Scand* 143: 450-457, 2021.
10) Senda M, Ishii K, Ito K, Ikeuchi T, Matsuda H, Iwatsubo T, Iwata A, Ihara R, Suzuki K, Kasuga K, Ikari Y, Niimi Y, Arai H, Tamaoka A, Arahata Y, Itoh Y, Tachibana H, Ichimiya Y, Washizuka S, Odawara T, Ishii K, Ono K, Yokota T, Nakanishi A, Matsubara E, Mori H, Shimada H. A Japanese Multicenter Study on PET and Other Biomarkers for Subjects with Potential Preclinical and Prodromal Alzheimer's Disease. *J Prev Alzheimers Dis* 8: 495-502, 2021.
11) Ono K, Watanabe-Nakayama T. Aggregation and structure of amyloid β-protein. *Neurochem Int* 151: 105208, 2021.
12) Watanabe-Nakayama T, Ono K. Acquisition and processing of high-speed atomic force microscopy videos for single amyloid aggregate observation. *Methods* 197: 4-12, 2022.
13) 小野 賢二郎. アルツハイマー病の病態と治療戦略を考える. *老年期認知症研究会誌* 23: 41-42, 2021.
14) 小野 賢二郎. 認知症診療の知 アルツハイマー病の疾患修飾療法の展望. *脳神経外科ジャーナル* 30: 840-844, 2021.
15) 小野 賢二郎. 抗 Aβ 療法の現状と展望. *神経治療学* 38: 146, 2021.
16) 小野 賢二郎. 認知症の Patient Journey を見つめた医療介入. *老年精神医学雑誌* 32 増刊号: 19-25, 2022.
17) 杉本 あずさ, 小野 賢二郎. 神経内科学のトピックス Aβ 凝集制御薬. *認知症の最新医療* 11: 18-23, 2021.
18) 稗田 宗太郎, 小野 賢二郎. 神経内科学のトピックス Aβ 免疫療法時代における高齢者タウオパチーの重要性. *認知症の最新医療* 11: 38-40, 2021.
19) 稗田 宗太郎, 小野 賢二郎. 認知症の治療の進歩. *神経治療学*, 38: 343-346, 2021.
20) 小野 賢二郎. 認知症診療に必要な神経科学の基礎知識. 山田 正仁（編）, *認知症診療実践ハンドブック改訂 2 版*, 中外医学社, 東京, 24-33, 2021.
21) 小野 賢二郎. Alzheimer 病. 園生 雅弘, 北川 一夫, 青木 正志（編）最新の治療 2021-2023 年, 南江堂, 東京, 169-170, 2021.
22) 小野 賢二郎. アルツハイマー病とアミロイドβの現在. 鈴木 則宏, 荒木 信夫, 宇川 義一, 桑原 聡, 塩川 芳昭（編）, *Annual Review 神経 2021*, 中外医学社, 東京, 130-136, 2021.

北岡裕章

1) Takahashi M, Okamoto N, Nishida K, Nakaoka Y, Imai RI, Seki SI, Kubo T, Yamasaki N, Kitaoka H, Kubokawa SI, Kawai K, Hamashige N, Doi Y. Progressive deterioration of frailty is associated with poor outcomes in patients with transthyretin cardiac amyloidosis. *Geriatr Gelontol Int* 21(10): 967-969, 2021.
2) Ochi Y, Kubo T, Baba Y, Sugiura K, Ueda M, Miyagawa K, Noguchi T, Hirota T, Hamada T, Yamasaki N, Kitaoka H. Wild-Type Transthyretin Amyloidosis in Female Patients - Consideration of Sex Differences. *Cir Rep* 3(8): 465-471, 2021.
3) Sugiura K, Kozuki H, Ueba H, Kubo T, Ochi Y, Baba Y, Miyagawa K, Noguchi T, Hirota T, Yamasaki N, Wada N, Nakashima J, Murakami I, Ikeuchi M, Kitaoka H. Tenosynovial and Cardiac Transthyretin Amyloidosis in Japanese Patients Undergoing Carpal Tunnel Release. *Cir Rep* 3(6): 338-344, 2021.
4) 中屋 雄太, 大木本 明義, 北岡 裕章. 心アミロイドーシス患者の心肺運動負荷試験指標の特徴に関する実態調査. *心臓* 54(1): 51-57, 2021.
5) 北岡 裕章. 高齢者心不全と心アミロイドーシ

ス．*老年内科* 4(1): 57-64, 2021.

田原宣広

1) Tahara N, Lairez O, Endo J, Okada A, Ueda M, Ishii T, Kitano Y, Lee HE, Russo E, Kubo T. 99m Technetium-pyrophosphate scintigraphy: a practical guide for early diagnosis of transthyretin amyloid cardiomyopathy. *ESC Heart Fail* 9(1): 251-262, 2022.
2) Tahara N, Tahara A, Maeda S, Yoshimura H, Bekki M, Sugiyama Y, Honda A, Igata S, Nishino Y, Matsui T, Fukami A, Enomoto M, Adachi H, Fukumoto Y, Yamagishi SI. Increased urinary levels of pentosidine measured by a newly developed ELISA are independently correlated with fracture after fall. *Rejuvenation Res* 24(6): 449-455, 2021.
3) Inomata T, Tahara N, Nakamura K, Endo J, Ueda M, Ishii T, Kitano Y, Koyama J. Diagnosis of wild-type transthyretin amyloid cardiomyopathy in Japan: red-flag symptom clusters and diagnostic algorithm. *ESC Heart Fail* 8(4): 2647-2659, 2021.
4) Kawaguchi T, Honda A, Sugiyama Y, Nakano D, Tsutsumi T, Tahara N, Torimura T, Fukumoto Y. Association between the albumin-bilirubin (ALBI) score and severity of portopulmonary hypertension (PoPH): A data-mining analysis. *Hepatol Res* 51(12): 1207-1218, 2021.
5) Sugiyama Y, Tahara N, Ueno T, Fukumoto Y. First remote-controlled robotic-enhanced balloon pulmonary angioplasty to chronic thromboembolic pulmonary hypertension. *Eur Heart J Case Rep* 5(10): ytab404, 2021.
6) Bekki M, Tahara N, Tahara A, Maeda-Ogata S, Sugiyama Y, Honda A, Igata S, Harada A, Hirakawa Y, Kurata S, Fujimoto K, Abe T, Fukumoto Y, Ueno T. Switching from clopidogrel to prasugrel resolves vascular inflammation in patients receiving long-term aspirin plus clopidogrel therapy after coronary stent implantation. *J Nucl Cardiol* 28(3): 1191-1192, 2021.
7) Honda A, Tahara N, Shojima T, Fukumoto Y. Multimodal imaging of quadricuspid aortic valve in elderly patient. *Eur Heart J Case Rep* 5(9): ytab344, 2021.
8) 田原 宣広．炎症と動脈硬化．*久留米醫學會雑誌* 84(6･7): 205-217, 2021

遠藤　仁

1) Tahara N, Lairez O, Endo J, Okada A, Ueda M, Ishii T, Kitano Y, Lee HE, Russo E, Kubo T. 99mTechnetium-pyrophosphate scintigraphy: a practical guide for early diagnosis of transthyretin amyloid cardiomyopathy. *ESC Heart Fail* 9(1): 251-262, 2022.
2) Moriyama H, Kitakata H, Endo J, Ikura H, Fukuda K. Early Diagnosis of Amyloid Cardiomyopathy: Potential and Need Before the Onset of Decompensated Heart Failure. *JACC CardioOncol* 3(2): 338, 2021.
3) Kitakata H, Endo J, Matsushima H, Yamamoto S, Ikura H, Hirai A, Koh S, Ichihara G, Hiraide T, Moriyama H, Shirakawa K, Goto S, Katsumata Y, Anzai A, Kataoka M, Tokuyama T, Ishido S, Yanagi S, Fukuda K, Sano M. MITOL/MARCH5 determines the susceptibility of cardiomyocytes to doxorubicin-induced ferroptosis by regulating GSH homeostasis. *J Mol Cell Cardiol* 161: 116-129, 2021.
4) Kitakata H, Endo J, Hashimoto S, Mizuno E, Moriyama H, Shirakawa K, Goto S, Katsumata Y, Fukuda K, Sano M. Imeglimin prevents heart failure with preserved ejection fraction by recovering the impaired unfolded protein response in mice subjected to cardiometabolic stress. *Biochem Biophys Res Commun* 572: 185-190, 2021.
5) Inomata T, Tahara N, Nakamura K, Endo J, Ueda M, Ishii T, Kitano Y, Koyama J. Diagnosis of wild-type transthyretin amyloid cardiomyopathy in Japan: red-flag symptom clusters and diagnostic algorithm. *ESC Heart Fail* 8(4): 2647-2659, 2021.
6) Goto S, Mahara K, Beussink-Nelson L, Ikura H, Katsumata Y, Endo J, Gaggin HK, Shah SJ, Itabashi Y, MacRae CA, Deo RC. Artificial intelligence-enabled fully automated detection of cardiac amyloidosis using electrocardiograms and echocardiograms. *Nat Commun* 12(1): 2726, 2021.
7) Miura K, Kimura M, Anzai A, Arai T, Kawakami T, Yuasa S, Hayashida K, Endo J, Tsuruta H, Itabashi Y, Kawamura A, Fukuda K, Kanazawa H. Predictors of

New-Onset Atrial Tachyarrhythmias After Transcatheter Atrial Septal Defect Closure in Adults. *Heart Lung Circ* 30(9): 1406-1413, 2021.
8) Sugiyama Y, Hakuno D, Yonemori K, Endo J, Sueyoshi K. Paraneoplastic rheumatic syndrome caused by left ventricular intimal sarcoma. *Eur Heart J Cardiovasc Imaging* 22(4): e9, 2021.
9) Goto S, Ichihara G, Katsumata Y, Ko S, Anzai A, Shirakawa K, Endo J, Kataoka M, Moriyama H, Hiraide T, Kitakata H, Kobayashi T, Fukuda K, Sano M. Time-Series Transcriptome Analysis Reveals the miR-27a-5p-Ppm1l Axis as a New Pathway Regulating Macrophage Alternative Polarization After Myocardial Infarction. *Circ J* 85(6): 929-938, 2021.
10) Shinya Y, Hiraide T, Momoi M, Goto S, Suzuki H, Katsumata Y, Kurebayashi Y, Endo J, Sano M, Fukuda K, Kosaki K, Kataoka M. TNFRSF13B c.226G>A (p.Gly76Ser) as a Novel Causative Mutation for Pulmonary Arterial Hypertension. *J Am Heart Assoc* 10(5): e019245, 2021.
11) Murata M, Kawakami T, Kataoka M, Moriyama H, Hiraide T, Kimura M, Endo J, Kohno T, Itabashi Y, Fukuda K. Clinical Significance of Guanylate Cyclase Stimulator, Riociguat, on Right Ventricular Functional Improvement in Patients with Pulmonary Hypertension. *Cardiology* 146(1): 130-136, 2021.
12) Kitakata H, Itabashi Y, Kanazawa H, Miura K, Kimura M, Shinada K, de Jongh MC, Endo J, Tsuruta H, Murata M, Kawamura A, Murata M, Fukuda K. Appropriate device selection for transcatheter atrial septal defect closure using three-dimensional transesophageal echocardiography. *Int J Cardiovasc Imaging* 37(4): 1159-1168, 2021.
13) 遠藤 仁. 心アミロイドーシスの最新の治療. *医学のあゆみ* 277(5): 45-50, 2021.

大橋健一

1) Koga-Kobori S, Sawa N, Kido R, Sekine A, Mizuno H, Yamanouchi M, Hayami N, Suwabe T, Hoshino J, Kinowaki K, Ohashi K, Fujii T, Ubara Y. Fabry Disease on Peritoneal Dialysis with Cardiac Involvement. Intern Med 60(10):1561-1565, 2021.
2) Uchida K, Furukawa A, Yoneyama A, Furusawa H, Kobayashi D, Ito T, Yamamoto K, Sekine M, Miura K, Akashi T, Eishi Y, Ohashi K. Propionibacterium acnes-Derived Circulating Immune Complexes in Sarcoidosis Patients. *Microorganisms* 9(11): 2194, 2021.
3) Fukuda M, Mizuno H, Hiramatsu R, Sekine A, Kawada M, Hasegawa E, Yamanouchi M, Suwabe T, Hoshino J, Sawa N, Takaichi K, Kinowaki K, Ohashi K, Fujii T, Miyazono M, Ubara Y. A case of thrombotic microangiopathy associated with polymyositis. *Clin Nephrol* 95(6): 339-344, 2021.
4) Hazue R, Ueno T, Nozaki H, Kinowaki K, Ohashi K, Hoshino J, Sawa N, Ubara Y. Syphilis-associated membranous nephropathy successfully treated with amoxicillin. *Clin Nephrol* 96(5): 297-301, 2021.
5) Yamaguchi T, Costabel U, McDowell A, Guzman J, Uchida K, Ohashi K, Eishi Y. Immunohistochemical Detection of Potential Microbial Antigens in Granulomas in the Diagnosis of Sarcoidosis. *J Clin Med* 10(5): 983, 2021.
6) Isshiki T, Homma S, Eishi Y, Yabe M, Koyama K, Nishioka Y, Yamaguchi T, Uchida K, Yamamoto K, Ohashi K, Arakawa A, Shibuya K, Sakamoto S, Kishi K. Immunohistochemical Detection of Propionibacterium acnes in Granulomas for Differentiating Sarcoidosis from Other Granulomatous Diseases Utilizing an Automated System with a Commercially Available PAB Antibody. *Microorganisms* 9(8): 1668, 2021.
7) Fukuda M, Sawa N, Hoshino J, Ohashi K, Motoaki M, Ubara Y. Tocilizumab preserves renal function in rheumatoid arthritis with AA amyloidosis and end-stage kidney disease: Two case reports. *Clin Nephrol* 95(1): 54-61, 2021.
8) Watanabe S, Sawa N, Mizuno H, Yamanouchi M, Suwabe T, Hoshino J, Kinowaki K, Ohashi K, Fujii T, Yamaguchi Y, Ubara Y. Development of osmotic vacuolization of proximal tubular epithelial cells following treatment with sodium-glucose transport protein 2 inhibitors in type II diabetes mellitus patients-3 case reports. *CEN Case Rep* 10(4): 563-569, 2021.
9) 大橋 健一. アミロイドーシスの病理診断. *診*

断病理 38(3): 226-239, 2021

畠山金太

1) 池田 善彦, 内木 宏延. 心アミロイドーシス. *病理と臨床* 39(10): 988-992, 2021.

安倍正博

1) Harada T, Hiasa M, Teramachi J, Abe M. Myeloma-Bone Interaction: A Vicious Cycle via TAK1-PIM2 Signaling. *Cancers (Basel)* 13(17): 4441, 2021.
2) Hiasa M, Harada T, Eiji Tanaka, Abe M. Pathogenesis and treatment of multiple myeloma bone disease. *Jpn Dent Sci Rev* 57: 164-173, 2021.
3) Sumitani R, Hori T, Murai J, Kawata S, Oura M, Sogabe K, Takahashi M, Harada T, Fujii S, Miki H, Kagawa K, Abe M, Nakamura S. Acute Myeloid Leukemia Developing with Acute Pancreatitis Mimicking Autoimmune Pancreatitis. *Intern Med* 60(11): 1753-1757, 2021.
4) Takashi Y, Sawatsubashi S, Endo I, Ohnishi Y, Abe M, Matsuhisa M, Kawanami D, Matsumoto T, Fukumoto S. Skeletal FGFR1 signaling is necessary for regulation of serum phosphate level by FGF23 and normal life span. *Biochem Biophys Rep* 27: 101107, 2021.
5) Tanimoto K, Hiasa M, Tenshin H, Teramachi J, Oda A, Harada T, Higa Y, Sogabe K, Oura M, Sumitani R, Hara T, Itsuro Endo, Matsumoto T, Tanaka E, Abe M. Mechanical unloading aggravates bone destruction and tumor expansion in myeloma. *Haematologica* 107(3): 744-49, 2022.
6) Tenshin H, Teramachi J, Ashtar M, Hiasa M, Inoue Y, Oda A, Tanimoto K, Shimizu S, Higa Y, Harada T, Oura M, Sogabe K, Hara T, Sumitani R, Maruhashi T, Sebe M, Tsutsumi R, Sakaue H, Endo I, Matsumoto T, Tanaka E, Abe M. TGF-β-activated kinase-1 inhibitor LL-Z1640-2 reduces joint inflammation and bone destruction in mouse models of rheumatoid arthritis by inhibiting NLRP3 inflammasome, TACE, TNF-α and RANKL expression. *Clin Transl Immunology* 11(1): e1371, 2022.
7) Takei M, Okada N, Nakamura S, Kagawa K, Fujii S, Miki H, Ishizawa K, Abe M, Sato Y. A Genome-Wide Association Study Predicts the Onset of Dysgeusia Due to Anti-cancer Drug Treatment. *Biol Pharm Bull* 45(1): 114-117, 2022.
8) Fuchida S, Kawamura K, Sunami K, Tsukada N, Fujii S, Ohkawara H, Usuki K, Wake A, Endo S, Ishiyama K, Ueda Y, Nakamura Y, Miyamoto T, Fukuda T, Ichinohe T, Atsuta Y, Takamatsu H. Retrospective Analysis of Autologous Stem Cell Transplantation for AL Amyloidosis: A Study from the Multiple Myeloma Working Group of the Japan Society for Hematopoietic Cell Transplantation. *Transplant Cell Ther* 28(2): 76-82, 2022.

鈴木憲史

1) Kastritis E, Palladini G, Minnema MC, Suzuki K, Bensinger W, et al. Daratumumab-Based Treatment for Immunoglobulin Light-Chain Amyloidosis. *N Engl J Med* 385(1): 46-58, 2021.
2) Moreau P, Dimopoulos MA, Suzuki K, Risse ML, Martin T, et al; Isatuximab, carfilzomib, and dexamethasone in relapsed multiple myeloma (IKEMA): a multicentre, open-label, randomised phase 3 trial. *Lancet* 397(10292): 2361-2371, 2021.
3) Knop S, Mateos MV, Dimopoulos MA, Suzuki K, Cavo M, et al. Health-related quality of life in patients with newly diagnosed multiple myeloma ineligible for stem cell transplantation: results from the randomized phase III ALCYONE trial. *BMC Cancer* 21(1): 659, 2021.
4) Quach H, Nooka A, Samoylova O, Suzuki K, Mateos MV, et al. Carfilzomib, dexamethasone and daratumumab in relapsed or refractory multiple myeloma: results of the phase III study CANDOR by prior lines of therapy. *Br J Haematol* 194(4): 784-788, 2021.
5) Hosen N, Yoshihara S, Suzuki K, Iida S, et al. Expression of activated integrin β7 in multiple myeloma patients. *Int J Hepatol* 114(1): 3-7, 2021.
6) Matsumoto M, Suzuki K, Kuroda J, Iida S, et al. Pembrolizumab plus pomalidomide and dexamethasone for relapsed or refractory multiple myeloma (KEYNOTE-183): subgroup analysis in

Japanese patients. *Int J Hematol* 113(6): 777-784, 2021.
7) Plesner T, Dimopoulos MA, Suzuki K, Gries KS, et al. Health-related quality of life in patients with relapsed or refractory multiple myeloma: treatment with daratumumab, lenalidomide, and dexamethasone in the phase 3 POLLUX trial. *Br J Haematol* 194(1): 132-139, 2021.
8) Facon T, Venner CP, Suzuki K, RajkumarSV, et al. Oral ixazomib, lenalidomide, and dexamethasone for transplant-ineligible patients with newly diagnosed multiple myeloma. *Blood* 137(26): 3616-3628, 2021.
9) Suzuki K, Sunami K, Matsumoto M, Shimizu K, et al. Phase II, Multicenter, Single-Arm, Open-Label Study to Evaluate the Efficacy and Safety of Panobinostat in Combination with Bortezomib and Dexamethasone in Japanese Patients with Relapsed or Relapsed-and-Refractory Multiple Myeloma. *Acta Haematol* 144(3): 264-274, 2021.
10) Chari A, Rodriguez-Otero P, McCarthy H, Suzuki K, Touzeau C, et al. Subcutaneous daratumumab plus standard treatment regimens in patients with multiple myeloma across lines of therapy (PLEIADES): an open-label Phase II study. *Br J Haematol* 192(5): 869-878, 2021.
11) Luo MM, Usmani SZ, Mateos MV, Suzuki K, Parasrampuria DA, et al. Exposure-Response and Population Pharmacokinetic Analyses of a Novel Subcutaneous Formulation of Daratumumab Administered to Multiple Myeloma Patients. *J Clin Pharmacol* 61(5): 614-627, 2021.
12) Takezako N, Shibayama H, Suzuki K, Iida S, et al. Once-weekly vs. twice-weekly carfilzomib dosing in a subgroup of Japanese relapsed and refractory multiple myeloma patients from a randomized phase 3 trial (A.R.R.O.W.) and comparison with ENDEAVOR. *Int J Hematol* 113(2): 219-230, 2021.
13) Sato K, Okazuka K, Ishida T, Sakamoto J, Kaneko S, Nashimoto J, Uto Y, Ogura M, Yoshiki Y, Abe Y, Maeda A, Hamazaki H, Tsukada N, Hiragohri Y, Suzuki K. Minimal residual disease detection in multiple myeloma: comparison between BML single-tube 10-color multiparameter flow cytometry and EuroFlow multiparameter flow cytometry. *Ann Hematol* 100(12): 2989-2995, 2021.
14) Suzuki K, et al. Carfilzomib, dexamethasone, and daratumumab in Asian patients with relapsed or refractory multiple myeloma: post hoc subgroup analysis of the phase 3 CANDOR trial. *Int J Hematol* 114(6): 653-663, 2021.
15) Mateos MV, Dimopoulos MA, Cavo M, Suzuki K, et al. Daratumumab Plus Bortezomib, Melphalan, and Prednisone Versus Bortezomib, Melphalan, and Prednisone in Transplant-Ineligible Newly Diagnosed Multiple Myeloma: Frailty Subgroup Analysis of ALCYONE. *Clin Lymphoma Myeloma Leuk* 21(11): 785-798, 2021.
16) Kimura K, Tsukamoto S, Miyazaki K, Kawajiri-Manako C, Ishii A, Rahmutulla B, Fukuyo M, Oshima-Hasegawa N, Mitsukawa S, Takeda Y, Mimura N, Takeuchi M, Ohwada C, Iseki T, Matsusaka K, Sanada M, Yokote K, Kaneda A, Ishida T, Suzuki K, et al. Identification of clonal immunoglobulin λ light-chain gene rearrangements in AL amyloidosis using next-generation sequencing. *Exp Hematol* 101-102: 34-41.e4, 2021.

河野　和

1) Fujimoto Y, Ueno S, Oda K, Gunda N, Shimomura Y, Nishimura Y, Yamaguchi A, Kuwano A, Ito Y, Baba Y, Nishigaki A, Michiwaki N, Uchino S, Kurogi K, Kawano Y, Matsuoka M, Saito H, Okuno Y, Jono H. Relationship between serum bortezomib concentration and emergence of diarrhea in patients with multiple myeloma and/or AL amyloidosis. *Cancers* 13(22): 5674, 2022.

山本　卓

1) Shirai N, Yamamoto S, Osawa Y, Tsubaki A, Morishita S, Nitami S, Narita I. Fear of falling and physical activity in hemodialysis patients: a pilot study. *Renal Replace Ther* 7: 63, 2021.
2) Shirai N, Yamamoto S, Osawa Y, Tsubaki A, Morishita S, Igarashi K, Narita I. Comparison of muscle strength between hemodialysis patients and

non-dialysis patients with chronic kidney disease. *J Phys Ther Sci* 33(10):742-747, 2021.
3) Kitabayashi K, Yamamoto S, Katano Y, Giustini K, Ei I, Ishii Y, Narita I. Locomotive Syndrome in Hemodialysis Patients and its Association with Quality of Life – A Cross-Sectional Study –. *Renal Replace Ther* 7: 36, 2021.
4) Yamamoto S, Sasahara K, Domon M, Yamaguchi K, Ito T, Goto S, Goto Y, Narita I. pH-Dependent Protein Binding Properties of Uremic Toxins In Vitro. *Toxins (Basel)* 13(2): 116, 2021.
5) Komaba H, Zhao J, Yamamoto S, Nomura T, Fuller DS, McCullough KP, Evenepoel P, Christensson A, Zhao X, Alrukhaimi M, Al-Ali F, Young EW, Robinson BM, Fukagawa M. Secondary hyperparathyroidism, weight loss, and longer term mortality in haemodialysis patients: results from the DOPPS. *J Cachexia Sarcopenia Muscle* 12(4): 855-865, 2021.
6) Wakamatsu T, Iwasaki Y, Yamamoto S, Matsuo K, Goto S, Narita I, Kazama JJ, Tanaka K, Ito A, Ozasa R, Nakano T, Miyakoshi C, Onishi Y, Fukuma S, Fukuhara S, Yamato H, Fukagawa M, Akizawa T. Type I Angiotensin II Receptor Blockade Reduces Uremia-Induced Deterioration of Bone Material Properties. *J Bone Miner Res* 36(1): 67-79, 2021.
7) 山本 卓. 慢性腎臓病に伴う骨･ミネラル代謝異常（血管石灰化、アミロイド骨関節症を含む）. *今日の治療指針 2022 年版* 640-643, 2022.

坂井健二

1) Sakai K, Noguchi-Shinohara M, Ikeda T, Hamaguchi T, Ono K, Yamada M. Cerebrospinal fluid cytokines and metalloproteinases in cerebral amyloid angiopathy-related inflammation. *Acta Neurol Scand* 143: 450-457, 2021.
2) Sakai K, Yamada M. Cerebral amyloid angiopathy-related inflammation and dementia. *Clin Exp Neuroimmunol* 12: 101-106, 2021.
3) Hamaguchi T, Kim JH, Hasegawa A, Goto R, Sakai K, Ono K, Itoh Y, Yamada M. Exogenous Aβ seeds induce Aβ depositions in the blood vessels rather than the brain parenchyma, independently of Aβ strain-specific information. *Acta Neuropathol Commun* 9: 151, 2021.
4) Yamaguchi H, Kawahara H, Kodera N, Kumaki A, Tada Y, Sakai K, Ono K, Yamada M, Hanayama R. Extracellular vesicles contribute to the metabolism of transthyretin amyloid in hereditary transthyretin amyloidosis. *Front Mol Biosci* 9: 839917, 2022.
5) 坂井 健二, 濵口 毅, 山田 正仁. 臨床医のための神経病理再入門 脳アミロイドアンギオパチー. *Clinical Neuroscience* 39: 132-134, 2021.
6) 坂井 健二, 山田 正仁. 脳アミロイドアンギオパチー関連炎症・血管炎. *BRAIN NERVE* 73: 489-495, 2021.
7) 坂井 健二. 高血圧性以外の脳小血管病: 脳アミロイドアンギオパチー, CADASIL, CARASIL・HDLS. 山田 正仁（編）, *認知症診療実践ハンドブック改訂第 2 版*, 中外医学社, 東京, 311-325, 2021.

2. 学会発表

内木宏延

1) 内木 宏延. ヒト全身性アミロイドーシス:発症の分子機構と病理組織学的診断. 第 110 回日本病理学会総会（腎アミロイドーシス診断、治療のトピックス）, Web 開催, 4,22-24, 2021.
2) 内木 宏延. 心アミロイドーシスの病理組織学的診断：免疫染色の重要性とアミロイドーシスに関する調査研究班のコンサルテーション体制について. 第 42 回心筋生検研究会学術集会, 吹田市, 6,12, 2021.
3) 武笠 結天, 袴田 圭祐, 升本 英利, 新谷 祈, 外山 友美子, 辻 崇, 徳平 壮一郎, 星野 真人, 八木 直人, 杉山 将大, 韮澤 崇, Jean-Paul Duong Van Huyen, Marion Rabant, Patrick Bruneval, 内木 宏延, 湊谷 謙司, 植田 初江, 池川 雅哉. 大型放射光施設 SPring-8 の X 線位差 CT を用いた心・腎アミロイドーシス組織の構造解析とイメージング質量分析法を用いた組織プロテオーム解析の統合. 第 42 回心筋生検研究会学術集会, 吹田市, 6,12, 2021.
4) 内木 宏延. アミロイドーシス発症の分子機構. 第 41 回日本画像医学会学術集会（肺アミロイドーシス）, Web 開催, 2,18-19, 2022.

安東由喜雄

1) Ando Y. Establishment of Kumamoto amyloidosis center in Japan. International Amyloidosis Society Virtual Symposium, web, 5,5, 2021.
2) 安東 由喜雄. 21 世紀の疾患アミロイドーシスこれまでの歩みとこれから. 第 3 回 Pfizer web シンポジウム, Web 開催, 熊本, 6,10, 2021.
3) 安東 由喜雄. ATTR の発見から治療に至る過程で今、何が問題になっているか. Medical Advisory Board Meeting, web 開催, 6,27, 2021.
4) 安東 由喜雄. ATTRv amyloidosis の臨床像. Medical Advisory Board Meeting, web 開催, 8,28, 2021.
5) 安東 由喜雄. 見つかる疾患から見つけ、治療する疾患へ. 遺伝性 ATTR アミロイドーシス web セミナーin 九州, web 開催, 9,28-30, 2021.

関島良樹

1) Sekijima Y. Central neurological manifestations. 3rd European ATTR Amyloidosis meeting for Patients and Dctors, Web 開催, 9,6-8, 2021.
2) Sekijima Y. Recent progress in the Diagnosis and Treatment of ATTR Amyloidosis. 第 85 回日本循環器学会学術集会, 横浜市, 3,26, 2021.
3) 関島 良樹. 高齢者の手根管症候群に潜む ATTR アミロイドーシスの早期診断. 第 62 回日本神経学会学術大会, 京都市, 5,20, 2021.
4) 関島 良樹. 神経内科医が知っておくべきトランスサイレチン型アミロイドーシスの診断と治療最前線. 第 62 回日本神経学会学術大会, 京都市, 5,20, 2021.
5) 関島 良樹. 家族性アミロイドーシスに対するパティシランの臨床. 第 62 回日本神経学会学術大会, 京都市, 5,22, 2021.
6) 関島 良樹. ATTR アミロイドーシスの病態解明と治療の最先端. 第 62 回日本神経病理学会総会学術研究会, Web 開催, 5.27-29, 2021.
7) 関島 良樹. ATTRv アミロイドーシスの治療ゴールを見据えた早期診断の重要性と siRNA 治療薬への期待. 第 31 回日本心臓核医学会総会・学術大会, Web 開催, 6,25-26, 2021.
8) 関島 良樹. 進化を遂げる遺伝性 ATTR アミロイドーシス治療. 日本人類遺伝学会 66 回大会, 横浜市, 10,13-16, 2021.
9) 関島 良樹. ATTR アミロイドーシス治療の最前線. 第 39 回日本神経治療学会学術集会,津市, 10,30, 2021.
10) 関島 良樹. 日常診療に潜む ATTRv アミロイドーシス. 第 39 回日本神経治療学会学術集会, 津市, 10,30, 2021.
11) 関島 良樹. 肝移植後長期生存例に多発する脳アミロイドアンギオパチー. 第 8 回日本アミロイドーシス学会学術集会,東京都, 11,19, 2021.
12) 中村 勝哉, 石川 真澄, 黄瀬 恵美子, 小島 彰子, 古庄 知己, 関島 良樹. 新規治療方法の進展が TTR-FAP における遺伝カウンセリングに与えた影響. 第 62 回日本神経学会学術大会, 京都市, 5,19, 2021.
13) Sekijima Y, Obici L, Conceicao I, Polydefkis M, Gillmore J, Berber E, White MT, Wang JJ, Berk J. Long-term, Integrated Safety of Patients with ATTRv Amyloidosis with Polyneuropathy. 第 62 回日本神経学会学術大会, 京都市, 5,20, 2021.
14) Katoh N, Abe R, Takahashi Y, Nakao S, Takasone K, Yoshinaga T, Yazaki M, Kametani F, Sekijima Y. Distribution of amyloidosis subtypes involving the peripheral nerve. 第 62 回日本神経学会学術大会, 京都市, 5,20, 2021.
15) 花岡 康子, 立花 直子, 石井 恵子, 中尾 聡, 橋本 隆男, 関島 良樹. 当院で経験した脳アミロイドアンギオパチー4 例：臨床経過とステロイド治療効果の検討. 第 62 回日本神経学会学術大会, 京都市, 5,20, 2021.
16) 高橋 佑介, 望月 祐介, 中尾 聡, 近藤 恭史, 加藤 修明, 関島 良樹. パチシランを用いた遺伝性 ATTR アミロイドーシスに対する治療経験. 第 62 回日本神経学会学術大会, 京都市, 5,21, 2021.
17) 柴田 有花, 松島 理明, 加藤 ももこ, 竹内 恵, 張 香理, 中村 勝哉, 織田 克利, 吉田 邦広, 関島 良樹, 戸田 達史, 矢部 一郎. 成人発症の遺伝性神経・筋疾患における発症前診断に関する全国調査. 第 62 回日本神経学会学術大会, 京都市, 5,22, 2021.
18) 平野 陽子, 石井 朝憲, 松本 紀子, 高田 亜実, 関島 良樹, 植田 光春, 安東 由喜雄. トランスサイレチン型家族性アミロイドポリニューロパチー

患者を対象としたタファミジス特定使用成績調査（中間解析結果）と患者プロファイル. 第 32 回日本末梢神経学会学術集会, 和歌山市, 9,10, 2021.
19) 星野 優美, 小平 農, 大橋 信彦, 森田 洋, 関島 良樹. 低域遮断フィルター設定が遺伝性 ATTR アミロイドーシス患者の上肢における遠位部複合筋活動電位の持続時間に与える影響. 第 32 回日本末梢神経学会学術集会, 和歌山市, 9,10, 2021.
20) 関島 良樹, ポリデフキス マイケル, ティカウ シミーナ, エルベ デイビッド, マクマナス アナスタシア, アルディンク エムリー, アダムス デイビッド, ライリー メアリー, ヴァイシュナウ アクシャイ, ニオイ ポール. 遺伝性 ATTR アミロイドーシスにおいて NfL は治療効果のバイオマーカーとなりうる : Patisiran APOLLO OLE 試験データ. 第 32 回日本末梢神経学会学術集会, 和歌山市, 9,10, 2021.
21) Sekijima Y, Polydefkis M, Ticau S, Erbe D, McManus A, Aldinc E, Adams D, Reilly MM, Vaishnaw A, Nioi P. NfL as a Potential Biomarker of Treatment Response in hATTR Amyloidosis. From Patisiran OLE Study. 第 39 回日本神経治療学会学術集会, 津市, 10,30, 2021.
22) Ueda M, Adams D, Tournev IL, Taylor MS, Coelho T, Plante-Bordeneuve V, Berk JL, Gonzalez-Duarte A, Gillmore JD, Soon-Chai L, Sekijima Y, Obici L, Blakesley R, Arum S, Shilling R, Vest J, Polydefkis M. HELIOS -A: Phase 3 Studfy of Vutrisiran in Patients with ATTRv Amyloidosis with Poly-neuropathy. 第 39 回日本神経治療学会学術集会, 津市, 10,30, 2021.
23) 矢崎 正英, 中川 真優子, 加藤 修明, 関島 良樹, 亀谷 富由樹. AH アミロイドーシスの簡便な診断法の確立 ―診断用抗免疫グロブリン重鎖抗体の開発への挑戦. 第 8 回日本アミロイドーシス学会学術集会, 東京都, 11,19, 2021.
24) 上野 晃弘, 星野 優美, 池田 淳司, 望月 祐介, 加藤 修明, 関島 良樹. 全身性 AL アミロイドーシスに対する daratumumab の使用経験. 第 8 回日本アミロイドーシス学会学術集会, 東京都, 11,19, 2021.
25) 松浦 徹, 三浦 久美子, 関島 良樹, 山田 敏幸. 遺伝性 ATTR（ATTRv）アミロイドーシス（G47Ｒ変異）の中枢神経症状. 第 8 回日本アミロイドーシス学会学術集会, 東京都, 11,19, 2021.
26) 関島 良樹, Adams D, Taylor MS, Coelho T, Gillmore JD, Soon-Chai L, Obici L, Blakesley R, Arum S, Shilling R, Vest J, Polydefkis M. HELIOS-A：9-Month Subgroup Analysis Exploratory Results from The Phase 3 Study of Vutrisiran in Patients with Hereditary Transthyretin Mediated Amyloidosis with Polyneuropathy. 第 8 回日本アミロイドーシス学会学術集会, 東京都, 11,19, 2021.
27) 望月 祐介, 上野 晃弘, 加藤 修明, 関島 良樹. 非常に高度な全身の軟部組織浸潤を認めた AL アミロイドーシスの 57 歳、女性例. 第 8 回日本アミロイドーシス学会学術集会, 東京都, 11,19, 2021.
28) 高橋 佑介, 近藤 恭史, 加藤 修明, 関島 良樹. 原発性全身性 AL アミロイドーシスと野生型 ATTR アミロイドーシスを合併した 81 歳男性例. 第 8 回日本アミロイドーシス学会学術集会, 東京都, 11,19, 2021.
29) 加藤 修明, 吉長 恒明, 矢崎 正英, 草場 哲郎, 山野 哲弘, 宮川 文, 関島 良樹. 世界 3 家計目となる遺伝性 Aβ2M アミロイドーシスの兄弟例（第 1 報）. 第 8 回日本アミロイドーシス学会学術集会, 東京都, 11,19, 2021.

島崎千尋

1) 島崎 千尋. AL アミロイドーシスの早期診断と最新治療. 「見逃し厳禁！アミロイドーシスの早期診断と治療法の進歩」. 第 62 回日本神経学会学術大会, 京都, 5,20, 2021.
2) 淵田 真一, 井出 大輔, 太田 沙絵子, 初瀬 真弓, 岡田 厚, 島崎 千尋. 心臓 99mTc ピロリン酸シンチグラフィー陽性 AL アミロイドーシスの 1 例. 第 8 回日本アミロイドーシス学会学術集会, 東京, 11,19, 2021.
3) 淵田 真一, 小倉 瑞生, 石田 禎夫, 畑 裕之, 半田 寛, 加藤 修明, 中世古 知昭, 角南 一貴, 片山 雄太, 野畑 宏信, 大城 一郁, 飯田 真介, 関島 良樹, 内木 宏延, 島崎 千尋. アミロイドーシス調査研究班による IgM 型 AL アミロイドーシス 21 例の後方視的解析. 第 46 回日本骨髄腫学会学術集会, 東京, 5,29-30, 2021.
4) Suzuki K, Wechalekar AD, Kim K, Shimazaki C,

Kim JS, Ikezoe T, Min CK, Zhou F, Iida S, Katoh N, Fujisaki T, Shin HJ, Tran NP, Qin X, Vasey SY, Tromp B, Weiss BM, Vermeulen J, Comenzo RL, Kastritis E, Lu J. Subcutaneous daratumumab + bortezomib/ cyclophosphamide/dexamethasone (D-VCD) in newly diagnosed AL amyloidosis: Asian subgroup analysis from ANDROMEDA. 第 46 回日本骨髄腫学会学術集会, 東京, 5,29-30, 2021.
5) Comenzo R, Kastritis E, Palladini G, Minnema MC, Wechalekar AD, Jaccard A, Sanchorawala V, Lee HC, Gibbs S, Mollee P, Venner CP, Lu J, Gatt ME, Suzuki K, Kim K, Cibeira MT, Beksac M, Libby E, Valent J, Hungria V, Wong SW, Rosenzweig M, Bumma N, Chauveau D, Dimopoulos MA, Tsukada N, Shimazaki C, Katoh N, Pei H, Weiss BM, Merlini G. Daratumumab/bortezomib/cyclophosphamide/ dexamethasone (D-VCd) for pts with AL amyloidosis: ANDROMEDA. 第 83 回日本血液学会学術集会, 仙台, 9,23-25, 2021.

飯田真介

1) Suzuki K, Wechalekar AD, Kim K, Shimazaki C, Kim JS, Ikezoe T, Min CK, Zhou F, Iida S, Katoh N, Fujisaki T, Shin HJ, Tran NP, Qin X, Vasey SY, Tromp B, Weiss BM, Vermeulen J, Comenzo RL, Kastritis E, Lu J. Subcutaneous Daratumumab + Bortezomib / Cyclophosphamide / Dexamethasone (D-VCd) in Newly Diagnosed AL Amyloidosis: Asian Subgroup Analysis from ANDROMEDA. 第 46 回日本骨髄腫学会学術総会, Web 開催, 5,29-30, 2021.

小池春樹

1) Koike H. Pathophysiology of CIDP: Insights into classification and therapeutic strategy. 2022 TNS-PNS Winter Symposium, Taipei, Taiwan, 2,20, 2022.
2) Koike H. Pathology of nodal complex in CIDP. 16th International Congress on Neuromuscular Diseases. オンライン開催, 5,21-22, 2021.
3) 小池 春樹. Case/ATTR アミロイドーシス: 手足のしびれ、下痢/便秘、手根管症候群. 第 24 回病院総合診療医学会学術総会. オンライン開催, 2,26, 2022.
4) 小池 春樹. 末梢神経疾患の診断と治療 update. 第 62 回日本神経学会学術大会. 京都, 5,19-22, 2021.
5) 小池 春樹. Reassemble polyneuropathy according to the ultrastructural characteristics. 第 62 回日本神経学会学術大会. 京都, 5,19-22, 2021.

星野純一

1) 波多野 雅貴, 星野 純一, et al. 長期血液透析に伴う手根管症候群に対する初回手根管開放術時の血液透析年数の歴史的変遷. 第 8 回日本アミロイドーシス学会学術集会, 東京, 11,19, 2021.

山田俊幸

1) 川口 公平, 佐藤 純司, 山田 俊幸. AA アミロイドーシスにおける沈着 AA 蛋白の翻訳後修飾分析. 第 61 回日本臨床化学会年次学術集会, 福岡市, 11,5, 2021.
2) 旭 由香里, 稲森 彩香, 山田 俊幸. 動物 SAA 測定試薬 VET-SAA ‘Eiken’ Reagent を用いた臨床検体の有用性評価. 第 61 回日本臨床化学会年次学術集会, 福岡市, 11,5, 2021.
3) 黒田 毅, 上家 潤一, 伊藤 由美, 今井 直史, 長谷川 絵里子, 佐藤 広恵, 小林 大介, 中枝 武司, 和田 庸子, 中野 正明, 成田 一衛, 山田 俊幸. 腎組織に組織学的および生化学的に特異な SAA 蛋白のサブタイプを認めた関節リウマチ合併 AA アミロイドーシスの 1 例. 第 8 回日本アミロイドーシス学会学術集会, 東京, 11,19, 2021.
4) 川口 公平, 佐藤 純司, 奥田 恭章, 黒田 毅, 山田 俊幸. 組織沈着 AA 蛋白におけるメチオニン酸化の分析. 第 8 回日本アミロイドーシス学会学術集会, 東京, 11,19, 2021.

奥田恭章

1) 奥田 恭章. コーヒーブレイクセミナー: 臨床研究の紹介 リウマチ性疾患の呼吸器・AA アミロイドーシスを中心に 第 8 回日本アミロイドーシス学会学術集会, 東京, 11,19, 2021.

小野賢二郎

1) Ono K. HMW Aβ oligomers are important targets for disease modifying approach of Alzheimer's disease. FASEB The Protein Aggregation Conference:

Function, Dysfunction, and Disease, Virtual Conference, 6,3-25, 2021.
2) Kimura A, Yasumoto T, Mori Y, Oguchi T, Umino M, Umino A, Nakamura S, Inoue T, Yamada M, Teplow DB, Kiuchi Y, Tsuji M, Ono K. Myricetin prevents Aβ oligomers-induced neurotoxicity via cell membrane damage. 15th International Conference on Alzheimer's & Parkinson's Diseases, Virtual Conference, 3,9-14, 2021.
3) Watanabe-Nakayama T, Tsuji M, Oguchi T, Ono K. Video imaging of structural dynamics of amyloid β protofibrils. Alzheimer's Association International Conference AAIC2021, Denver, 7,26-30, 2021.
4) 小野 賢二郎. Aβ オリゴマーに焦点を当てたアルツハイマー病へのアプローチ. 第 62 回日本神経学会学術大会, 京都（現地・WEB）, 5,19-22, 2021.
5) 小野 賢二郎. 抗 Aβ 療法の現状と展望. 第 39 回日本神経治療学会学術集会, 三重（現地・WEB）, 10,28-30, 2021.
6) 小野 賢二郎. 認知症領域におけるプロテイノパチーの病因解明 Up to Date. 第 40 回日本認知症学会学術集会, 東京（現地・WEB）, 11,26-28, 2021.
7) 大橋 英朗, 辻 まゆみ, 小口 達敬, 門馬 佑太郎, 野原 哲人, 井藤 尚仁, 山本 譲, 永田 未希, 小野 賢二郎, 木内 祐二. クルクミンとフェルラ酸のアミロイド β 凝集および神経細胞傷害への相加的効果. 第 40 回日本認知症学会学術集会, 東京（現地・WEB）, 11,26-28, 2021.
8) 坂井 健二, 篠原 もえ子, 池田 篤平, 濵口 毅, 小野 賢二郎, 山田 正仁. 脳アミロイドアンギオパチー関連炎症の脳脊髄液における炎症関連マーカーの解析. 第 46 回日本脳卒中学会学術集会, 福岡（現地・WEB）, 3,11-13, 2021.
9) 坂井 健二, 篠原 もえ子, 池田 篤平, 濵口 毅, 小野 賢二郎, 山田 正仁. Cerebrospinal fulid inflammatory markers in cerebral amyloid angiopathy-related inflammation. 第62回日本神経学会学術大会, 京都（現地・WEB）, 5,19-22, 2021.
10) 野元 祥平, 安本 太郎, 正路 大樹, 髙橋 聖也, 刑部 祐友子, 杉本 あずさ, 小野 賢二郎, 馬場 康彦. 自然軽快したアミロイドアンギオパチー関連脳症疑いの 84 歳女性例. 第 237 回日本神経学会関東・甲信越地方会, 東京, 6,5, 2021.
11) Futamura A, Hieda S, Mori Y, Sugimoto A, Kasai H, Kuroda T, Yano S, Kasuga K, Murakami H, Ikeuchi T, Ono K. Cingulate island sign in SPECT: clinical biomarker correlations in LBD and AD. 第 62 回日本神経学会学術大会, 京都（現地・WEB）, 5,19-22, 2021.
12) Futamura A, Hieda S, Mori Y, Kasuga K, Sugimoto A, Kasai H, Kuroda T, Yano S, Tsuji M, Ikeuchi T, Irie K, Ono K. Toxic $A\beta_{42}$ conformer may accelerate the AD onset in the preclinical stage. 第 40 回日本認知症学会学術集会, 東京（現地・WEB）, 11,26-28, 2021.
13) 門馬 佑太郎, 辻 まゆみ, 小口 達敬, 野原 哲人, 大橋 英朗, 井藤 尚仁, 山本 譲, 永田 未希, 中村 史朗, 小野 賢二郎, 木内 祐二. Aβ 高分子 oligomer 誘発性細胞傷害に対する新規治療薬 GT863 の保護作用. 第 40 回日本認知症学会学術集会, 東京（現地・WEB）, 11,26-28, 2021.

北岡裕章

1) 杉浦 健太, 久保 亨, 越智 友梨, 馬場 裕 山崎 直仁, 北岡 裕章. 野生型トランスサイレチン心アミロイドーシスの早期診断の取り組み. 第 63 回日本老年医学会学術集会, 名古屋市, 6,11, 2021.

田原宣広

1) 田原 宣広, 戸次 宗久, 田原 敦子, 緒方 詔子, 枚山 陽一, 本多 亮博, 井形 幸代, 福本 義弘. FDG-PET イメージングによる動脈硬化プラークの分子学的評価. 第 53 回日本動脈硬化学会総会・学術集会, Web 開催, 10,23-24, 2021.
2) 田原 宣広, 戸次 宗久, 田原 敦子, 緒方 詔子, 枚山 陽一, 本多 亮博, 井形 幸代, 福本 義弘. 心臓サルコイドーシスにおける FDG-PET の重要性 Update. 第 41 回日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会, Web 開催, 10,29-30, 2021.

遠藤　仁

1) 遠藤 仁. トランスサイレチン心アミロイドーシスの現状と今後の展望. 第 8 回日本アミロイドーシス学会学術集会, 東京, 11,19, 2021.
2) 遠藤 仁. アミロイドは積極的にスクリーニン

グすべきか？ 第 25 回日本心不全学会学術集会, Web 開催, 10,1-3, 2021.
3) 遠藤 仁. 心アミロイドーシスの早期診断と最新治療. 第 62 回日本神経学会学術大会, Web 開催, 5,19-22, 2021.
4) 遠藤 仁. AL アミロイドーシス診療における循環器内科の役割と他科の連携. 第 83 回日本血液学会学術集会, Web 開催, 9,23-25, 2021.
5) 遠藤 仁. 心アミロイドーシスの早期診断に向けての整形外科・循環器内科の新たな診療連携. 第 14 回日本運動器疼痛学会, Web 開催, 11,24, 2021.
6) 遠藤 仁. 循環器疾患の最新治療：心アミロイドーシスの診断と治療の進歩. 第 45 回日本心臓病学会教育セミナー, Web 開催, 6,13, 2021.
7) 遠藤 仁. Forefront of Treatment for Cardiac Amyloidosis: Diagnosis and treatment of ATTRwt cardiac amyloidosis in Japan. 第 85 回日本循環器学会学術集会, 横浜, 3,26-28, 2021.
8) 遠藤 仁. 心アミロイドーシス診断・治療における循環器内科医の役割. 第 85 回日本循環器学会学術集会, 横浜, 3,26-28, 2021.
9) 遠藤 仁. 革新する ATTR 心アミロイドーシスの診断と治療. 第 85 回日本循環器学会学術集会, 横浜, 3,26-28, 2021.
10) 遠藤 仁. 組織リモデリングをコントロールする新たなω3 脂肪酸代謝物. 第 21 回動脈硬化教育フォーラム, Web 開催, 2,14, 2021.
11) 遠藤 仁. Shadows and light of lipid metabolites in heart disease. 第 37 回国際心臓研究学会日本部会 シンポジウム, Web 開催, 3,12, 2021.
12) 遠藤 仁. 進化する心アミロイドーシス治療. 日本心エコー図学会第 32 回学術集会, Web 開催, 4,23-25, 2021.

大橋健一

1)澤 直輝, 大橋 健一. 腎アミロイドーシス診断、治療のトピックス AL アミロイドーシスの診断と治療の Up to date. 日本病理学会総会, web 開催, 4,22-24, 2021.

畠山金太

1) 池田善彦. アミロイドーシス教育プログラム. 第 42 回心筋生検研究会学術集会, 現地および Web 開催, 吹田市, 6,12, 2021.
2) 池田 善彦. アミロイドーシスを含めた二次性心筋症の診断－TGCV との鑑別. 第 4 回中性脂肪学会学術集会, 現地および Web 開催, 吹田市, 12,4, 2021.

安倍正博

1) Miki H, Shingen N, Nakamura M, Mizuguchi M, Sumitani R, Oura M, Sogabe K, Takahashi M, Maruhashi T, Harada T, Fujii S, Kagawa K, Hamano H, Kondo M, Okada N, Bando Y, Endo I, Abe M. The importance of retaining physical functions to prevent skeletal-related events in multiple myeloma patients with bone disease. ECTS 2021 Digital Congress, 3,8, 2021.
2) Miki H, Nakamura S, Nakamura M, Mizuguchi M, Sumitani R, Oura M, Sogabe K, Takahashi M, Maruhashi T, Harada T, Fujii S, Kagawa K, Hamano H, Kondo M, Okada N, Bando Y, Endo I, Abe M. The importance of retaining physical functions to prevent SRE in multiple myeloma. 第 46 回日本骨髄腫学会学術集会, 福島+web, 5,29, 2021.
3) Miki H, Nakamura S, Nakamura M, Sumitani R, Oura M, Sogabe K, Takahashi M, Maruhashi T, Harada T, Fujii S, Nishio S, Tomonari T, Abe M. Assessment of liver stiffness with shear wave elastography for hepatic AL amyloidosis. 18th International Myeloma Workshop, Vienna, 9,8-11, 2021.
4) Miki H, Nakamura S, Fujii S, Nakamura M, Mizuguchi M, Sumitani R, Oura M, Sogabe K, Takahashi M, Maruhashi T, Harada T, Kagawa K, Nishio S, Tomonari T, Abe M. Diagnostic efficacy of non-invasive ultrasound shear wave elastography for hepatic AL amyloidosis. 第 83 回日本血液学会学術集会, 仙台＋web, 9,23-25, 2021.
5) 中村 昌史, 三木 浩和, 住谷 龍平, 大浦 雅博, 曽我部 公子, 丸橋 朋子, 髙橋 真美子, 原田 武志, 藤井 志朗, 中村 信元, 西尾 進, 友成 哲, 安倍 正博. AL アミロイドーシスの肝病変の評価における超音波エラストグラフィの有用性. 第 61 回日本血液学会中国四国地方会, 山口＋web, 3,19,

2022.

河野　和

1) 河野 和, 畑 裕之, 松岡 雅雄. 多発性骨髄腫に合併した AL アミロイドーシス症例に対する DRd 療法の可能性. 第 8 回日本アミロイドーシス学会学術集会, 東京, 11,29, 2021.
2) 河野 和: AL アミロイドーシス診療の過去・現在、そしてこれから. 第 8 回日本アミロイドーシス学会学術集会, 東京, 11,29, 2021.

山本　卓

1) Yamamoto S, Yamamoto K, Hirao Y, Goto S, Yamamoto T, Gejyo F, Narita I. Mass spectrometry-based proteomic analysis of adsorbed molecules in a hexadecyl-immobilized cellulose beads column for the treatment of dialysis-related amyloidosis. Kidney Week 2021, Web 開催, 11,4-7, 2021.
2) 山本 卓, 白井 信行, 北林 紘, 成田 一衛. 運動機能面から. 第 64 回日本腎臓学会学術総会, Web 開催, 6,21, 2021.
3) 山本 卓, 成田 一衛. 保存期において PTH 管理は必要か？ Pro 第 64 回日本腎臓学会学術総会, Web 開催, 6,21, 2021.
4) 山本 卓, 山口 圭一, 土門 美緒, 伊藤 徹, 後藤 眞, 後藤 祐児, 成田 一衛. pH によるウレミックトキシンの蛋白結合能の変化. 第 64 回日本腎臓学会学術総会, Web 開催, 6,19, 2021.

坂井健二

1) 坂井 健二, 篠原 もえ子, 池田 篤平, 濵口 毅, 小野 賢二郎, 山田 正仁. Cerebrospinal fulid inflammatory markers in cerebral amyloid angiopathy-related inflammation. 第62回日本神経学会学術大会, 京都（現地・Web）, 5,19-22, 2021.
2) 石田 千穂, 駒井 清暢, 坂井 健二, 川島 篤弘, 北島 信治, 原田 ゆかり, 岩佐 和夫, 山田 正仁. 多系統萎縮症を合併した遺伝性 ATTR アミロイドーシスの 1 剖検例. 第 62 回日本神経病理学会総会学術研究会, Web 開催, 5,27-29, 2021.
3) 坂尻 顕一, 清水 愛, 坂井 健二, 新田 永俊. 脳アミロイドアンギオパチー関連炎症疑いの 1 例. 第 93 回石川脳血管障害研究会, Web 開催, 9,4, 2021.
4) 久後 信也, 清水 愛, 坂尻 顕一, 新田 永俊, 坂井 健二. ステロイド治療が有効であった脳アミロイドアンギオパチー関連炎症疑いの 1 例. 第 245 回日本内科学会北陸地方会, 金沢（現地・Web）, 9,5, 2021.
5) 坂井 健二. 脳アミロイドアンギオパチー: 最近のトピックス. 第 23 回中部老年期認知症研究会, Web 開催, 1,29, 2022.

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

1. 特許取得

安東由喜雄

発明の名称：トランスサイレチン四量体安定化剤、及び、トランスサイレチンアミロイドーシス予防剤又は進行抑制剤
出願番号 : PCT/JP2021/037039, PCT/JP2021/037040
出願人：国立大学法人 熊本大学；株式会社カネカ；学校法人九州文化学園 長崎国際大学
出願年月日：令和 3 年 10 月 6 日
権利者（発明者）: 植田 光晴, 増田 曜章, 三隅 洋平, 澤下 仁子, 安東 由喜雄, 松下 博昭

植田光晴

発明の名称：トランスサイレチン四量体安定化剤、及び、トランスサイレチンアミロイドーシス予防剤又は進行抑制剤
整理番号：20032PC09, 20033PC09（ＰＣＴ）
出願番号 : PCT/JP2021/037039, PCT/JP2021/037040
出願人：国立大学法人 熊本大学；株式会社カネカ；学校法人九州文化学園 長崎国際大学
出願年月日：令和 3 年 10 月 6 日
権利者（発明者）: 植田 光晴, 増田 曜章, 三隅 洋平, 澤下 仁子, 安東 由喜雄, 松下 博昭

2. 実用新案登録

なし。

3. その他

なし。